

烏帽子会会報

2012年秋号 Vol.53



筑紫病院完成予想図（平成25年1月完成予定、5月開院予定）

■ 烏帽子会縁結びサイト	4p
■ 同窓会第16期理事・監事/支部長	6p
■ 教授就任挨拶	7p
■ 研究奨励賞論文抄録	12p
■ 烏帽子会賞受賞の言葉	33p
■ 医学部同窓会諸表	40p

福岡大学医学部同窓会

目 次

・会長挨拶／就任の御挨拶	高木忠博	3
・烏帽子会縁結びサイトの開始にあたって		4
・福岡大学 医学部同窓会 第16期理事・監事名簿／支部長名簿		6
・教授就任挨拶		
教授就任のご挨拶	中島 衡	7
教授就任の挨拶	野田 慶太	9
・総会報告		
第31回烏帽子会総会報告	小沢 昌彦	10
・研究奨励賞		
平成24年度研究奨励賞選考報告	竹下 盛重	12
・平成24年度授賞論文抄録・研究計画報告		
Two-Layered Tissue Engineered Urethra Using Oral Epithelial and Muscle Derived Cells (論文)	三上 洋	13
冠動脈疾患患者における血流依存性血管拡張反応と上腕動脈内膜中膜複合体厚と脈波伝播速度の関連性 (論文)	小吉 里枝	13
Expression of laminin 5- γ 2 chain in cutaneous squamous cell carcinoma and its role in tumor invasion	濱崎 悠	14
Analysis of KRAS mediated secretory micro RNA in lung cancer, and examination of clinical significance.		
肺癌における変異KRAS制御末梢分泌型micro RNAの解析 (計画)	吉田 康浩	14
Etiological factors in primary hepatic B-cell lymphoma (論文)	菊間 幹太	15
小細胞肺癌の網羅的遺伝子発現解析による予後因子の解明 (計画報告)	濱中 和嘉子	16
・平成25年度研究奨励賞募集要項		16
・平成23年度評議員会議事録		17
・学生対策報告		
M6国試激励会の報告	朔 啓二郎	23
2012年度M1 新入生歓迎会を終えて	竹下 盛重	23
医師国家試験対策夏季集中講座の報告／M7 懇親会の報告	松永 彰	25
2012年度M4 学生激励会を終えて	竹下 盛重	25
・支部便り		
第35回烏帽子会 北九州支部総会を記念して	坂本 博士	26
・会員寄稿		
ゼロ・ポジションで	三原 誠	29
夢と東京と仕事	正木 稔子	30
・キャンパスだより		
烏帽子会受賞者名簿		33
烏帽子会賞を受賞して	梅谷 聡太	34
水泳愛好会 活動状況報告	下地 和香子	34
大学での水泳再出発	熊谷 浩紀	35
6年間を振り返って	児玉 英也	35
決勝の舞台に立つこと	藤田 晃宏	36
九山優勝	長尾 達憲	37
・訃 報		
菊池昌弘先生への言葉	竹下 重盛	38
今泉忍先生を偲んで	諸江 一男	39
・医学部同窓会諸表／医局長・医長名簿		40～42
・教育職員人事／事務局からのご連絡		43
・烏帽子縁結びサイトはじまります／編集後記		ウラ表紙

会長挨拶

就任の御挨拶

烏帽子会 会長 高木 忠博 (1回生 脳神経外科クリニック高木 院長)



今期も烏帽子会会長に総会にて再選して頂きました。現在は、福大が、今迄着実に発展して行った42年の歴史の中で大きな試練と対峙している時を迎えている様に思いますが古い私学同窓会にも歴史の途中にはど

この大学にもこの様な試練は必ず有った様です。

全国私立医学部同窓会連絡会に出席させて頂き他大学の先輩達からお話を聞かせて頂くと同窓会が、発展して行く過程での必然の様に思いました。その試練が発生した時に最も大切な事は、決して評論家遊びをせずに、常に「So what? (でどうする?)」を全知全霊を傾けて考えて「We do. (でこうする。)」を必死に模索して歴史を作って行く作業が大切なのだと痛切に感じました。この様な活動が、大学の伝統を一つ一つ作って行く事に為ると思います。決して自虐的にならず、問題と義務を明確にしなが

ら常に行き、問題と義務を明確にしなが

常に行き、問題と義務を明確にしなが

常に行き、問題と義務を明確にしなが

平成 25 年 医学部医学科入学試験の要点

	A方式推薦	地域枠推薦	前期日程一般一次	前期日程一般二次
出願期間	平成24年11月1日(木) ～9日(金)	平成24年11月1日(木) ～9日(金)	平成25年1月5日(土) ～22日(火)	
試験日	平成24年11月25日(日)	平成24年11月25日(日)	1次:平成25年2月4日(月)	2次:平成25年2月14日(木)
試験科目	英語、数学、面接、調査書	英語、数学、面接、調査書	英語、数学、理科(2科目)	小論文、面接、調査書
募集人員	25人程度	10人	75人	
合格発表	平成24年12月4日(火)	平成24年12月4日(火)	平成25年2月9日(土)	平成25年2月22日(金)
<p>福大医学部医学科を受験されるお子様のお名前をお教え下さい。 烏帽子会では毎年、福大医学部を受験される同窓生のお子様のお名前をお尋ねしております。大学によっては同窓生子女の合格者数が入学定員の半数に迫る大学もあるようですが、本学ではまだ10数名、入学定員の10%台に過ぎません。つきましては、色々の参考にしたいと考えていますので、お差し支えなければ受験されるお子様のお名前を下記までお知らせ下さい。 TEL: 092-865-6353 FAX: 092-865-9484 E-mail: eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp 〒814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会</p>			<p>追加合格 平成25年2月22日(金)の二次合格発表と同時に、追加合格予定者に追加合格予定順位が通知されます。その中から3月31日までに追加合格者を決定し、本人に通知されます。</p>	

烏帽子会縁結びサイトの開始にあたって

常任理事 田 野 茂 樹 (6 回生)



初冬の候、朝晩の寒さも身にしみる今日この頃、会員の皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。

同窓会事業は今や 16 事業にのぼり、他大学に劣ることない事業を進めております。更に内容を充実させることは重要ですが、何か皆様のお役に立てる事業ができないものかと考えてまいりました。そこでかねてよりご要望のありました内容を形にしたのが「烏帽子会縁結び」です。会員の皆様のご息女、ご息女の良縁を願い、ご希望の情報をご紹介できる方法がないものか考えた結果ホームページを開設することに至りました。

昨年の東日本大震災はテレビの迫力もあり、国民に大変な驚愕と絶望感を与えました。その後の復興ボランティア等々、人と人のつながりの大切さ、暖かさを感じさせられました。全国的な結婚数も増加したと聞いております。

同窓会活動にも、今までしてきた学生対策は学内教授に任せ、他の活動をとの気運も高まり、同窓生子弟の結婚問題が議案にあがりました。ご息女、ご息女の婚期遅れが心配だとの声を多くいただいていたからでした。

結婚に際しては、両家の家柄、人柄、暮らしぶりが大切になってまいります。その点同窓会内で、気心も知れた仲介人もいて安心でき、共通する概念も多いと思います。

ただ多くの会員が、インターネットを利用しますと乱用によるご迷惑をおかけすることが懸念されます。それを避ける為に、利用方法（情報登録、閲覧）に制約が付き、仲介者の方に多大なるご足労をおかけせざるをえません。安全安心な運用のためにもホームページ利用規約に従っていただきますようお願い申し上げます。

最後に皆様のご多幸と当サイトの成功をお祈りいたします。

簡単な実行までのイメージ

① 本学卒業生で、ご子弟に結婚を目的とした交際相手紹介を希望される方、または卒業生本人で紹介を希望される方が、この烏帽子会縁結びサイトを利用いただけます。

② 希望される方は、烏帽子会ホームページを開いて確認して下さい。

お見合いに関する意見確認ページ → ご挨拶ページ → 利用規約確認ページ
→ ログインページ → 御息女、御息女情報ページ と進みます。

③ 登録を希望される方は、記入用紙をダウンロードして記入していただき郵送で事務局まで送って下さい。ID とパスワードをお送りします。

登録して頂く情報として・・・

卒業生①氏名②卒業回③勤務先

子息・息女●①氏名(イニシャルでも可)②家族構成、家族紹介 ●③年齢④職業
⑤年収⑥最終学歴⑦趣味⑧結婚歴⑨希望する子どもの数⑩煙草喫煙歴⑪相手に希望する事 ●⑫自己アピール⑬写真(掲載希望者は別途メールで送る)⑭相手
あるいは自分の親との同居が可能か否か

全ての項目に答える必要はありませんが、●印については必ずお答え下さい。

仲介者①氏名②卒業回③勤務先

④ ID とパスワードが届きましたら、閲覧が始まります。ご自分の登録をされた方しか閲覧は出来ませんので注意して下さい。

⑤ サイトに交際希望者が見つかった場合、まず仲介者に連絡していただくことにご留意下さい。(仲介者とは、信頼して任せることの出来る卒業生の友人のことです)。以後の手配は仲介者にて取り仕切っていただき、それ以外の方を介さないようになさって下さい。

ただし、このような仕切りは女性の方が適している場合もありますので、仲介者に奥様と一緒に登録していただいても構いません。

※例えば 6回生同窓会常任理事

田野茂樹先生の奥様

田野〇〇様を仲介者とします。

⑥ 仲介者(自分の信頼出来る友人又は奥様)は、交際を希望する方の仲介者(相手の信頼出来る友人または奥様)に連絡していただき、仲介者同士で交際可能かどうか話しあって下さい。(通常の見合いでもそうですが、親同士では本音の話しは難しいものです。断る場合は特に気を使います。

まずは仲介者を介して交際を開始していただきます。

⑦ その後の進展について同窓会は関与するものではありません。あくまでも最初の出会いをセツトするのがこのサイトの目的です。

⑧ この事業の発展のために、交際がスタートした時や結婚が決まった場合は、同窓会にご報告いただければと思います。

「烏帽子会縁結び」については、今年1年間かけてシステムや注意すべきことなど考え話し合っていました。その根底にあるものは「会員の皆様のご息女、ご息女の良縁を願いつつ、ご希望の情報をご紹介できれば」との思いだけです。信頼のおける仲介者をお願いしているのもそのためです。

昔は良縁を取り持つ仲人制度がありましたが、最近ではめっきりと減ってきている状態です。同窓会がその一端でも担い皆様のお役にたてれば幸いです。

皆様のご利用と無事縁談がまとまることを同窓会はお祈りしております。

福岡大学 医学部同窓会 第16期理事・監事名簿

役職名	姓 名	回	分担業務(◆はチーフ)	勤務先
会 長	高 木 忠 博	1	全体統括	脳神経外科クリニック高木
副会長	朔 啓二郎	1	◆総務	福岡大学医学部 心臓・血管内科学
副会長	林 英 之	1	◆学術	福岡大学医学部 眼科学
副会長	重 田 正 義	2	◆総務	山崎リゾートクリニック
専務理事	権 藤 公 和	1	◆支部	権藤内科
専務理事	前 川 隆 文	2	学生	福岡大学筑紫病院 外科
専務理事	竹 下 盛 重	3	◆学生	福岡大学医学部 病理学
専務理事	廣 瀬 伸 一	3	学生	福岡大学医学部 小児科学
専務理事	大慈弥 裕 之	3	◆広報	福岡大学医学部 形成外科学
専務理事	松 永 彰	3	◆国試	福岡大学医学部 臨床検査医学
専務理事	浦 田 秀 則	3	学術	福岡大学筑紫病院 循環器内科
専務理事	岩 崎 昭 憲	5	学術	福岡大学医学部 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学
専務理事	田 中 伸之介	5	◆財務	社会保険 直方病院
専務理事	小 川 厚	6	学生	福岡大学筑紫病院 小児科
常任理事	占 部 嘉 男	5	学生	占部医院
常任理事	中 村 秀 治	5	学生	中村クリニック
常任理事	田 野 茂 樹	6	総務	たの眼科医院
常任理事	二 田 哲 博	9	学生	二田哲博クリニック
常任理事	笠 健児朗	12	学生・総会	笠外科・胃腸科医院
理事	二 見 喜太郎	1	総務	福岡大学筑紫病院 外科
理事	松 本 直 樹	3	総務	松本病院
理事	蔵 田 善 規	7	支部	蔵田眼科クリニック
理事	岩 隈 昭 夫	8	広報	福岡リハビリテーション病院 循環器科
理事	坂 田 俊 文	10	総務	福岡大学筑紫病院 耳鼻いんこう科
理事	武 末 佳 子	11	広報・保険	北九州市立八幡病院 眼科
理事	鍋 島 茂 樹	13	学生	福岡大学病院 総合診療部
理事	小 玉 正 太	13	財務	福岡大学医学部 再生・移植医学
理事	北 島 研	21	広報	福岡大学筑紫病院 循環器内科
監事	江 下 明 彦	2		医) 江下内科クリニック
監事	柴 田 陽 三	4		福岡大学筑紫病院 整形外科

福岡大学 医学部同窓会 支部長名簿

役 職	姓 名	回	勤 務 先
七隈支部長	松 永 彰	3	福岡大学医学部 臨床検査医学
筑紫病院支部長	植 木 敏 晴	8	福岡大学筑紫病院 消化器内科
福岡支部長	権 藤 公 和	1	権藤内科
福岡赤十字病院支部長	土 持 廣 仁	2	福岡赤十字病院 脳神経外科
北九州支部長	坂 本 博 士	2	医療法人 坂本眼科医院
飯塚支部長	二 宮 健	6	二宮医院
筑豊支部長	吉 峯 晃 一	4	医療法人 吉峯医院
筑紫支部長	竹 野 文 洋	5	医療法人 たけの内科クリニック
朝倉支部長	古 林 修 一	6	こばやし皮膚科
筑後支部長	中 原 俊 尚	2	中原内科クリニック
佐賀支部長	山 津 善 保	5	医療法人 三善会 山津医院
長崎支部長	星 子 浄 水	7	医療法人 星子医院
佐世保支部長	富 田 寿 三	7	とみた産婦人科クリニック
熊本支部長	魚 返 英 寛	5	魚返外科胃腸科医院
大分県支部長	鬼 木 寛 二	1	医療法人 咸宜会 日田中央病院
宮崎県支部長	野 田 寛	4	野田医院
鹿児島支部長	山 下 互	2	医療法人 拓和会 山下わたる内科
沖縄県支部長	野 原 薫	3	のはら小児科医院
広島県支部長	井 上 忠 雄	2	さつき会井上内科医院
関西支部長	渡 邊 太 郎	11	医療法人 純幸会 豊中渡邊病院

教授就任挨拶

教授就任のご挨拶

福岡大学医学部 腎臓・膠原病内科学教室 教授 中 島 衡 (特別会員)



中島 衡(なかしま ひとし) 教授 略歴

- S 56年 (1981)
九州大学医学部卒業
九州大学医学部附属病院
医員 (研修医) (第一内科)
- S 57年 (1982)
米国テキサス大学
ポストドクトラルフェロー
- S 61年 (1986)
国立遺伝学研究所助手
(総合遺伝研究系)
- H 6年 (1994)
九州大学医学部附属病院
助手 (第一内科)
- H 17年 (2005)
九州大学・大学病院
講師 (第一内科)
- H 19年 (2007)
福岡大学医学部
准教授 (腎臓・膠原病内科)
- H 22年 (2010)
福岡大学病院
診療教授 (腎臓・膠原病内科)
- H 24年 (2012)
福岡大学医学部
教授 (腎臓・膠原病内科)

今年4月より、斉藤喬雄教授の後任を努めさせて頂くこととなりました。就任して半年以上経った今、斉藤先生が築き上げてこられた腎臓・膠原病内科を継承、発展させるという責任の重さを痛感しております。

私は、鹿児島ラサール高校を卒業後、九州大学医学部に進学しました。昭和56年(1981年)に卒業するまで、ずっとサッカー部員として過ごしていた様な気がします。医師国家試験受験の際にも、上着の下にはユニフォームを着て臨みました。1966年開催されたロンドンW杯の記録映画「Goal」を中学1年生の時に観て以来、サッカーにのめり込んでしまったのです。特にソビエト連邦のGK; レフ・ヤシンの格好良さに魅了されてしまいました。黒いユニフォームに身を包み、長い手足を使った独特のセービングスタイルから「黒蜘蛛」と呼ばれ、独走ドリブルに対して、地上すれすれをスーパーマンのようにボールに向かって飛んでいく姿は、まさにヒーローでした。私はすっかり憧れてしまって、中学時代からGK一筋で過ごしてきました。大学時代は、福岡地区大学リーグ、九州山口医科学生体育大会(九山)、西日本インカレ、西日本医科学生体育大会、七帝戦、全九州大学対抗戦、天皇杯予選と試合が立て込んでおり、一年中グラウンドに集っていました。1978年(昭和53年)には、現在新病院が建築されている場所にあった福大グラウンドで、福岡大学の主管で九山が開かれ、見事優勝させて頂きましたことは心地のよい思い出です。現役時代には、何点ゴールを許したかはわかりません。もちろん素晴らしいシュートもありました。しかし、ペナルティエリアの外からダイビングヘッドを決められたことがあります。私が蹴ったゴールキックをダイレクトに蹴り返されて失点したこともあります。味方のディフェンスから35mのロングシュートを決められたこともあります。両親や先輩からは、サッカー選手ではなくて医師になるわけだから、いい加減に熱を冷ますように諭されていた学生時代でした。振り返って考えると、一生付き合える沢山の友人を作ることができたのもこの時代であったような気がしています。

卒業後、九大第一内科に入局し、非常に楽しい、有意義な一年間の研修医生活の後、米国テキサス大学で生化学の研究を、1986年(昭和61年)からは国立遺伝学研究所にて遺伝学を学びました。臨床教室を外から眺めることができた、非常に貴重な体験だったと思います。当時、ヒト・ゲノムプロジェクトが盛り上がってきていた

時代だっただけに、新規の技術や発見にあふれ、研究の進め方のダイナミクスさに驚かされつづけ、自分の立つ位置がどこにあるのかの理解もできないままの8年間だった様な気がしています。分子生物学の知識と技術を学び、1994年（平成6年）に第一内科に戻して頂きまして、再度臨床医の生活が始まりました。それから膠原病を対象とした診療、研究を続けています。

我々の教室は、膠原病専門医と腎臓病専門医が協力して診療を行うという全国的に見てもユニークな臨床教室です。全身を診ることを第一番目に考える医師の育成を目指しています。お互いの立

場からの自由な発想を診療・研究に結びつけることに努めていきたいと思っています。教室の臨床力を高め、学生の教育、指導を行い、研究成果を発信し、社会に貢献することが臨床教室に要求されることと思いますが、それ以上に、各教室員が持っている「夢」を叶えることに少しでも貢献できる教室を創りたいと思っています。そのためには、自由な発想や提案を教室全体でシェアし、個人の積極性を大いに促すことに努めなければならないと思っています。今後とも腎臓・膠原病内科を宜しくお願い申し上げます。

在外研究助成金受給者名簿

姓名	回・学年	勤務先	地位役職	予定期間	留学先
米 良 利 之	25	福岡大学医学部 再生・移植医学	ポスドク	1110-1309	Massachusetts General Hospital
多根井 智 紀	22	大阪大学医学部乳腺内分泌外科		1206-1306	Methodist Hospital Research Institute, Baylor College of Medicine
四 元 房 典	準会員	福岡大学医学部生化学	講 師	1211-1310	Sanford-Burnham Medical Research Institute, La Jolla, CA, United States

福岡大学医学部同窓会

在外研究援助金 募集要項

対 象：正会員、準会員及び学生会員（本会会費完納を条件とする）で医学の研究または医療技術の習得のため、3ヶ月以上外国に留学する者

申請方法：所定の申請書により留学出発3ヶ月前までに提出の事

提 出 先：〒814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
TEL 092-865-6353（直通） 代表 092-801-1011 内線 3032
FAX 092-865-9484

援 助 金：1件 20万円を限度とし、年間 10件以内

発 表：その都度、同窓会会報に掲載

そ の 他：①受給者は帰国後その成果を総会で口演するか同窓会会報に発表する事
②申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードの事

※準会員・学生会員の方もご応募下さい。

教授就任の挨拶

福岡大学病院臨床研究支援センター

福岡大学大学院医科系臨床研究科学 教授 野田 慶太 (6回生)



野田慶太(のだけいた)教授 略歴

- 1983.3 福岡大学医学部 卒業
- 1989.3 福岡大学医科系大学院 終了
(医学博士)
- 1990.4 Research fellow
Department of Molecular
Cardiology, Cleveland
Clinic Foundation
(Cleveland, OH, USA)
- 1995.10 福岡大学病院 内科第2 助手
- 1997.4 福岡大学病院 内科第2 講師
- 2002.4 福岡大学病院 治験管理室
講師
- 2005.10 福岡大学病院
臨床研究支援センター
副センター長
- 2006.4 福岡大学病院
臨床研究支援センター
センター長 (准教授)
福岡大学大学院
医科系臨床研究科学 准教授
- 2012.4 福岡大学病院
臨床研究支援センター
センター長 (教授)
福岡大学大学院
医科系臨床研究科学 教授

現在、私が所属している福岡大学病院臨床研究支援センターおよび福岡大学大学院医科系臨床研究科学は、ともに臨床研究に関わる部門で、福岡大学病院における治験・臨床研究の実施に関わる支援と臨床研究を行う人材の育成が主要な業務です。

特に治験に関しては、医学的・社会的ニーズおよびアカデミア(大学病院)の使命として貢献しなければならない重要な業務です。治験とは、新たな薬・機器の候補を国に医薬品・医療機器として承認してもらうために行うヒトを対象とした臨床試験であり、薬事法の規制(Good Clinical Practice:GCP)を受けます。この治験で得られたデータを元に規制当局が審査を行い、承認されますと、我々医師が患者に医薬品として処方でき、または、医療機器として患者に使用することができるわけです。日本においては、国外ですでに承認されている医薬品が使用できなかったり、治験の実施の遅れなどで新薬の承認が遅れたり(ドラッグラグ)していることが問題となっています。また、日本では、高レベルの均一な医療が安い医療費で受けられるため、敢えて治験という試験に参加しなければならない医療環境ではなく、治験の重要性を理解もらえるボランティア精神のある患者さんに協力していただいている側面もあります。

臨床研究支援センターは、2002年に治験管理室として新設され、2005年に現在の部署名となりました。2007年には、厚生労働省の治験活性化5カ年計画の拠点病院(全国で30医療機関)に指定され、公的補助金を受けながら治験の実施体制を強化してきました。今後も、治験のプロフェッショナルとして高い品質のデータ収集、迅速な治験の実施、被験者の安全確保、市民に対する治験の啓発などを目標に努力していきたいと思います。

2006年4月には、福岡大学大学院医科系臨床研究科学が新設され、その教員も兼務することになり、大学院生と臨床試験の計画を立案、実施し、学会や論文発表もできました。2008年には「臨床研究に関する倫理指針」の全部改訂が行われ、指針の周知のために院内で事前講義を開始しています。これを契機に病院長に申請される臨床研究の件数は急速に増え、現在は年間150件以上となっています。エビデンスに基づく医療を行うに当たっては、臨床研究は不可欠であり、そこには倫理性、信頼性、科学性が求められます。今後も福岡大学病院・大学院での臨床研究の支援、人材育成に努力して行きたいと考えています。

総会報告

第31回烏帽子会総会報告

第31回烏帽子会総会実行委員会代表 小 沢 昌 彦 (15 回生 福岡大学医学部眼科)

去る平成24年7月7日、西鉄ソラリアホテルにおいて、第31回烏帽子会総会、講演会および懇親会が行われました。例年以上に雨の多かった梅雨の時期でしたが、当日はなんとか天候にも恵まれ、忙しい最中、特別会員の先生をはじめ、165名という例年を上回る多くの先生に参加していただきました。

総会では多くの議題・報告事項にも関わらず、参加いただきました皆様の協力により滞りなく終了する事ができました。

引き続き行われた満留昭久先生による講演会では、親の病気や貧困、虐待や育児放棄などで、生まれた親のもとで暮らせない子どもたちを支援する取り組みについて詳しく知る事ができました。

懇親会にも多くの先生に参加していただきました。「今年は新しい形式にトライしよう」ということで、先に行われた総会も含め、講演会、懇親会全てに総合司会という形で、フリーアナウンサーでフルート奏者でもある中西久美さんに協力していただきました。その甲斐もあり、会の内容は盛り沢山でしたが、進行を全

て円滑に行う事ができました。

懇親会では高木会長および内藤副学長のごあいさつの後、研究奨励賞の表彰が行われました。竹下選考委員長による選考の経緯についての説明があり、5名の先生に授与されました。また西医体で優秀な成績を残した学生の団体・個人に対し贈られる、烏帽子会賞の授与が行われました。その後、今回のスペシャル企画である司会の中西さんを含む「楽団ななや」によるすばらしい演奏会がありました。

最後に次回担当学年である16回生への引き継ぎを行い、全員で輪になり新病棟の映像をバックに校歌斉唱し大盛況のもとに、無事閉会する事ができました。これも同窓会事務局の皆様と多くの諸先輩方からのご助言の賜物であると思っております。またご多忙の中参加していただいた方々はもとより、当日参加できないながらもいろいろな形でサポートしていただいた全ての方々のおかげです。書面にて誠に失礼ではございますが、この場を借りてお礼を述べさせていただきます。本当にありがとうございました。



幹事の先生方



総会受付



総会実行委員会代表 小沢昌彦先生



講演会風景



講演中の満留昭久先生



懇親会の始まり



総合司会 美魔女ファイナリスト：中西久美さん



ゲストの宮本・久保・山下・内藤・白日・満留特別会員の先生方



恒例の輪になって校歌斉唱



16 回生へ幹事引継ぎ



万歳三唱 5 回生の中村・田中・古野・松田・占部先生

研究奨励賞

平成 24 年度同窓会研究奨励賞選考報告

選考委員長 竹 下 盛 重 (3 回生)

第 15 回同窓会研究奨励賞選考委員会を平成 24 年 7 月 2 日に開催しました。選考委員は、同窓会長、副会長が見守る中、福岡大学医学部・病院、筑紫病院の卒業生の教授で行います。

8 名の応募があり、5 名は論文による審査、3 名は研究計画を提出頂きました。厳選の末、5 名に対し優秀賞を授与することを決めました。この 5 名のなかで 1 名は本年度の科研費を頂いている方が含まれており、今後の検討を期待し受賞の運びになっております。また、他 4 名はインパクトファクターが 2 以上の雑誌への投稿論文です。他の 3 名もこれから数年の間に良い研究ができると思いますので、その時にトライして頂きたいと思ひます。この賞は、履歴書にも記載できるものであり、皆様にとっても栄誉なことと思

われます。これを糧にさらに研究を進めて頂きたいと思ひます。この賞に関しては、正会員のみならず、福岡大学医学部、病院等に寄与する準会員も応募できます。どしどしご応募して頂きたいと思ひます。また、この賞の授与式は同窓会総会の懇親会の乾杯前に行う重要なイベントです。賞を受けるにあたり原則この会への出席が義務づけられております。今回の選考委員の話合いの中で、この奨励賞は 2 度もらえないのかという話題が出てきました。これに関しては、原則は 2 回の受賞はないが、特に秀でた研究 (IF が 10 以上) に対しては同窓会賞を与えて良いのではないかと案が煮詰まってきました。来年この話をして、金額も含め決定を行います。

福岡大学医学部泌尿器科学講座 研究員 三 上 洋 (準会員)	口腔内細胞を用いた組織工学的尿道再生 (論文)
福岡大学医学部心臓・血管内科学 福大助手 小 吉 里 枝 (28 回生)	冠動脈疾患患者における血流依存性血管拡張反応と上腕動脈内膜中膜複合体厚と脈波伝播速度の関連性 (論文)
福岡大学・大学院医学研究科 (病態生化学系専攻) 福大大学院生 濱 崎 悠 (26 回生)	Expression of laminin 5- γ 2 chain in cutaneous squamous cell carcinoma and its role in tumor invasion (論文)
福岡大学医学部 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学 福大助教 吉 田 康 浩 (24 回生)	肺癌における変異 KRAS 制御末梢分泌型 micro RNA の解析 (計画)
福岡大学医学部病理学講座 福大大学院生 菊 間 幹 太 (23 回生)	Etiological factors in primary hepatic B-cell lymphoma (論文)



受賞者に贈られる Award

研究奨励賞表彰

平成 24 年度授賞論文抄録

Two-Layered Tissue Engineered Urethra Using Oral Epithelial and Muscle Derived Cells (論文)

福岡大学医学部泌尿器科学講座 三 上 洋 (準会員)

目的: 口腔内細胞を用いて、組織工学を応用した尿道再生の研究を行った。

対象と方法: ビーグル犬(移植群 10 匹, 対照群 10 匹)を実験に用いた。口腔内の組織を生検し、そこから口腔粘膜細胞と筋由来細胞とを単離した。それぞれの細胞を組織工学的に培養し、尿道グラフトを作製した。移植群にはグラフトを置換移植し、対照群には尿道切除のみを行った。両群ともに定期的な尿道造影を行い、最長 12 週間経過を観察した。尿道造影で明らかな狭窄を認めた場合、または尿道に瘻孔を認めた場合には、陰茎部分切除を行い、尿道の組織学的評価を行った。

結果: 口腔粘膜細胞シートを培養し、グラフトの粘膜

層とした。また筋由来細胞をコラーゲンの足場で培養し、グラフトの筋層とした。作製した粘膜層を筋層の上に積層し、その後管腔化することで組織工学的尿道グラフトを完成させた。移植群では、55%が尿道合併症なしで術後 12 週間生存した。Complication free survival rateの比較では、2群間に統計学的有意差が認められた($p=0.0315$)。移植群の組織評価では、尿道粘膜および粘膜下組織の再生を認めた。一方対照群では、上皮の再生は認められず、尿道内腔は肉芽組織で占拠されていた。

結論: 口腔内生検組織から、新たな管腔状の尿道グラフトを作製することが出来た。イヌへの移植実験の結果から、本法の尿道再生治療への応用が期待される。

冠動脈疾患患者における血流依存性血管拡張反応と上腕動脈内膜中膜複合体厚と脈波伝播速度の関連性 (論文)

福岡大学心臓・血管内科学 福大助手 小 吉 里 枝 (28 回生)

【背景と目的】

上腕動脈の血流依存性血管拡張反応 (bFMD)、上腕・足首脈波伝播速度 (baPWV) や頸動脈内膜中膜複合体厚 (cIMT) は動脈硬化の検査として広く用いられている。しかし心血管イベントの予測における有用性は、今だ確立されてはいない。また、現在まで上腕動脈 (b)IMT に関しての報告は少ない。今回、安定狭心症患者と冠動脈疾患 (CAD) のない患者の冠動脈危険因子や bFMD、baPWV の関連について評価し、加えて、新規の解析ソフト (トレンドプラス[®]) を用いて bIMT が CAD の予測因子となり得るかも検討した。

【方法】

安定狭心症患者連続 200 症例 (CAD 群) と、年齢、性別、BMI をマッチした冠動脈疾患のない 50 例 (non-CAD 群) を対象とし、FMD、baPWV、cIMT

及び冠動脈危険因子の測定を行った。

【結果】

多変量解析にて bFMDs、DBP、HbA1c、HDL-C が CAD の独立予測因子であった。bFMD、推定糸球体濾過量、HDL-C、LDL-C は病変枝数と有意なトレンドを認めた。病変枝数の独立予測因子は bFMD と HDL-C であった。トレンドプラス[®]の解析において、CAD の有無は、bFMD、bIMT、ずり速度減衰時定数、血流速度減衰時定数と関連性を認め、CAD の独立予測因子は、bFMD と bIMT であった。

【結論】

bFMD は baPWV やその他の冠危険因子と比較し、安定狭心症患者における CAD の重症度の予測因子であった。加えて、bIMT も CAD の予測因子となることが示唆された。

Expression of laminin 5- γ 2 chain in cutaneous squamous cell carcinoma and its role in tumor invasion

福岡大学・大学院医学研究科（病態生化学系専攻） 福大大学院生 濱 崎 悠（26 回生）

Haruka Hamasaki^{1,2}, Kaori Koga¹, Mikiko Aoki¹, Makoto Hamasaki¹, Naohiko Koshikawa³, Motoharu Seiki³, Hiroshi Iwasaki¹, Juichiro Nakayama², Kazuki Nabeshima¹

Departments of ¹Pathology and ²Dermatology, Fukuoka University Hospital and School of Medicine, Fukuoka 812-0180, Japan; ³Division of Cancer Cell Research, Institute of Medical Science, University of Tokyo, Tokyo 108-8639, Japan

Abstract

BACKGROUND: Laminin-5(Ln5), a heterotrimer composed of three chains [α 3, β 3, and γ 2], is a major component of the basement membrane in most adult tissues. One of the chains, Ln5- γ 2, is a marker of invasive tumors because it is frequently expressed as a monomer in malignant tumors. Recent studies from our laboratories detected higher levels of Ln5- γ 2 expression in basal cell carcinoma (BCC) than trichoblastoma. Furthermore, Ln5- γ 2

overexpression tended to correlate with aggressiveness in BCC. In this study, we compared the expression of Ln5- γ 2 in invasive squamous cell carcinoma (SCC, n=62) of the skin to that in preinvasive Bowen disease (BD, n=51), followed by analysis of the role of Ln5- γ 2 in cancer invasion in vitro.

RESULTS: Immunohistochemically, the proportion of SCC cases (86%) strongly positive for Ln5- γ 2 expression was higher than that of BD (16%). Real-time RT-PCR showed Ln5- γ 2 overexpression in SCC cell line, A431, compared with normal keratinocyte cell line, HaCaT. Ln5- γ 2 monomer and proteolytically cleaved, biologically active fragments of Ln5- γ 2 were identified in SCC tumor extracts. In in vitro raft cultures, which simulate in vivo conditions, Ln5- γ 2 siRNA significantly suppressed epidermal growth factor(EGF)-stimulated A431 cell invasion.

CONCLUSION: Our results indicate that Ln5- γ 2 plays a role in cutaneous SCC invasion.

Analysis of KRAS mediated secretory micro RNA in lung cancer, and examination of clinical significance.

肺癌における変異 KRAS 制御末梢分泌型 micro RNA の解析（計画）

福岡大学医学部 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学 福大助教 吉 田 康 浩（24 回生）

miRNA は血液中では、腫瘍からのエクソソームを介した分泌型 miRNA として存在し、生体内組織や縦隔リンパ節における遺伝子発現を遠隔制御するものと考えられ、新たなバイオマーカーとして診断や治療に応用できるのではないかと注目されている。

本研究では、肺癌患者で、変異 KRAS 制御末梢分泌型 miRNA を、患者血清よりエクソソームの抽出により解析し、リンパ節での標的分子の発現も同時に解析することで、癌の早期発見、診断、予後予測、治療効果などに有用なバイオマーカーを探索するこ

とを目的とする。

膨大な数の miRNA の中から意味のある miRNA を特定するのは難しく、効率的な標的遺伝子の検索法に工夫が必要となる。肺癌患者の 25% 程にみられる変異 KRAS の有無を比較要素に加え、効率的に肺癌に關与する分泌型 miRNA を検出できるのではな

いかと考える。
具体的な方法は、患者から血液及び縦隔リンパ節サンプルを回収し、mRNA を採取。Real-Time PCR や発現アレイにより、我々が候補に挙げている

KRAS 依存性 miRNA の発現量の確認を行う。発現アレイの結果は、候補に挙げている miRNA に有意な変動が見られない場合でも、KRAS 依存的に変動する標的分子の検出にも、結果が利用可能である。

最終的に、miRNA の発現変動がみられた患者の臨床の予後・病期・組織型・治療効果などのデータを解析し、検出された miRNA が臨床に及ぼす意義を解明する。

Etiological factors in primary hepatic B-cell lymphoma (論文)

福岡大学医学部病理学講座 福大大学院生 菊 間 幹 太 (23 回生)

Abstract Sixty-four cases of malignant lymphoma involving the liver were examined. Of these, 20 cases were histologically confirmed to be primary hepatic B-cell lymphoma. Twelve of these 20 cases were diffuse large B-cell lymphoma (DLBCL) and eight cases were mucosa-associated lymphoid tissue (MALT) lymphoma. Of the 12 cases of DLBCL, six were immunohistologically positive for CD10 and/or Bcl6 (indicating a germinal center phenotype), six were positive for Bcl2, and five were positive for CD25. Eight of the 12 DLBCL cases (66.7%) and two of the eight MALT lymphoma cases (25%) had serum anti-hepatitis C virus (HCV) antibodies and HCV RNA. The incidence of HCV infection was significantly higher in the hepatic DLBCL cases than in systemic intravascular large B-cell cases with liver involvement (one of 11 cases, 9.1%) and T/NK-cell lymphoma cases (one of 19 cases, 5.3%)

($p < 0.01$ for both). Two hepatic DLBCL cases (16.7%) had rheumatoid arthritis treated with methotrexate, and four MALT lymphoma cases (50%) had Sjögren's syndrome, primary biliary cirrhosis, or autoimmune hepatitis; one case in each of these two groups was complicated by chronic HCV-seropositive hepatitis. Although primary hepatic lymphoma is rare, persistent inflammatory processes associated with HCV infection or autoimmune disease may play independent roles in the lymphomagenesis of hepatic B cells.

Keywords Liver, Malignant lymphoma, HCV, Autoimmune disease

Virchows Arch, 2012; 460: 379-387

Received: 12 November 2011 / Revised: 8 January 2012 / Accepted: 19 January 2012 / Published online: 7 March 2012.

平成 22 年度研究奨励賞受賞研究報告

小細胞肺癌の網羅的遺伝子発現解析による予後因子の解明 [計画報告]

福岡大学病院 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科 濱 中 和嘉子 (26 回生)

共同研究：福岡大学病院 呼吸器・乳腺内分泌・
小児外科、癌研究所 病理部

研究指導：岩崎 昭憲、石川 雄一

近年、肺癌の遺伝子変化についての研究が進み、臨床治療へ応用されている。EGFR 遺伝子変異のある肺癌に対するゲフィチニブや、ALK 転座肺癌に対するがその代表である。肺癌を遺伝子発現でプロファイリングすることにより、いまだ発癌機序の分かっていない肺癌の性質を理解し、診断や治療へ臨床応用をおこなうことが期待できる。

今までの諸報告から、遺伝子発現と形態学との関連性は証明されている。そこで、我々は形態だけでな

く機能的にも特徴を有する小細胞肺癌に注目し、遺伝子発現解析 (GEP) を行った。その結果、小細胞肺癌大きく2つのグループにわかれ、その2群間で予後に有意差があることがわかった。この2群で発現の大きく異なる遺伝子を抽出し、現在それぞれの遺伝子がどのように小細胞肺癌の発癌・進行へ寄与しているのかを検討中である。また同時にそれらの遺伝子群がどのような pathway に関与しているかも重要と考え、pathway map を作成していく予定である。

肺癌は個体でも多様性にあふれた組織像を呈しており、そのことが治療抵抗性ひいては予後が悪いことへ繋がっている。今後もその多様性を克服するための研究を続けていきたい。

平成 25 年度 福岡大学医学部同窓会

研究奨励賞募集要項

対 象：正会員及び準会員で、40 才未満の者または学部卒業後 10 年未満の者(本会会費完納を条件とする)

研究課題：医学に関するものであれば自由 (医学に関する研究計画又は研究論文)

申請方法：所定の申請書による (所定欄に支部長推薦を要す)

提出先：〒 814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局

Tel 092-865-6353 (直通) 代表 092-801-1011 内線 3032 Fax 092-865-9484

締 切：平成 25 年 4 月 30 日 (火)

賞状・賞金：奨励賞 (優秀論文賞を含む) 5 件以内

発表及び表彰：平成 25 年 7 月、第 32 回同窓会総会席上 必ず出席する事

そ の 他：①論文受賞者は抄録を提出する事

計画受賞者は 1 年後研究成果報告書を提出する事

②申請書は同窓会事務局に請求又は同窓会ホームページからダウンロードの事

③申請書はワープロで記載し、過去の研究業績 (原著、著書、症例報告、学会発表)、研究の独創性・重要性を十分に書く事

※準会員の方もご応募下さい。

平成 23 年度評議員会議事録

- ◆日時 平成 24 年 4 月 28 日 16 時
- ◆場所 福岡国際ホール
- ◆出席 評議員：実出席 45、委任出席 39、
欠席 23
支部長（再掲）：出席 11、欠席 9

◇経過報告

〈高木会長〉

皆さんこんにちは。毎年報告しています子弟の入試状況ですが、今年は A 方式推薦が 3 人、地域枠推薦 0 人、一般入試が 10 人で合計 13 人という結果でした。一般入試と比べ A 方式、地域枠推薦の方が僅かではありますが有利な様に思います。入試だけが相変わらず超難関の状態が続いているようです。次に昨年の秋、学部長選があり僅差で朔学部長誕生とはならず残念な結果でした。朔先生につきましては皆さんご存知の様に資格・人格共に卒業生を代表する同窓会のエースであり、福大医学部をリードして新しい時代を創って行ける人間と確信しております。今回は残念でしたが次回を目指して皆でバックアップしていきたいと思えます。

9 月に全国私立医科大学連絡会西部会を福大主管で行いました。西日本の私立大 11 校が集まり様々な情報交換ができて盛会の内に終わりました。

学生への奨学金制度ができましたが、最初の受給者である学生が、国家試験に無事に合格し研修医としてスタートしました。奨学金制度が生かされたことは本当に喜ばしいことでした。

これが最も大きな報告になりますが、残念ながら今年の国家試験の結果が再び全国最下位になってしまいました。全国の合格率平均は平成 12 年より 90% 台を推移してきていますが、福大は 77.9% という結果でした。今回は受験生を絞っての最下位ですので衝撃が大変大きかった様です。本来国家試験は大学教育の問題でありまして同窓会がどうできることではありませんが、この成績に関しては全国順位が公表されますので、これを 1 つの大学教育の結果として見るならば同窓会としては敏感に成らざるを得ません。保護者からのメールも同窓会に送られて来ており、学生保護者の心配が大きくなっていくばかりなのかと思えました。昨日、新 6 年生の国試激励会を担任の朔先生を中心として実施いたしました。これには東京女子医科大学准教授で 8 回生の牧野先生を講師として招き、東京女子医大における国試の内容や学習方法をコンパクトに話してくれ学生も目を

皿のようにして聞いておりました。関東の方ではかなり IT 化されている様で、IT を駆使してやっていたことに感心しました。女子医大は下の 30 人をなくすという国試対策をしていると説明を受けました。

卒業生の話の中で子弟の結婚が話題になるようになりました。子弟の結婚問題で苦勞していることを聞きこれを何とか同窓会事業としてできないか検討・協議を始めました。烏帽子会は今正念場にさし掛かっているのではないかと感じます。烏帽子会が一枚岩になって知恵と力を結集して苦境から脱却した時に我々の本当の歴史が始まるのではないかと思います。

亡くなった先生方を悼み黙祷。

◇議題 1. 平成 23 年度収入支出決算見込

〈事務局説明〉

[附]会費納入状況

〈田中専務理事説明〉

日頃よりお忙しい中時間を作っていただき、納入の為に ご尽力をいただきましたことに心より御礼申し上げます。皆様のご努力ご尽力によりまして、今年も高い納入率を継続することができるようです。昨年のこの会で、単年度の数字も出して欲しいとご要望がありましたので支部に関しては別掲載をしております。5 月 31 日が締めでございますが 3 月 31 日現在で支部は 84.2% という大変高い納入率をいただいております。飯塚、筑紫、筑後、佐世保、大分に関しましては 100% にご努力に感謝申し上げます。通年しました現在の状況は 76.7% でございますので、例年同様最終的には 80% を超えるところまで持って行けるのではないかと期待しております。本部徴収におきましては最終の締めがなされておきませんが、現在 55.1% ですので、これも例年同様になると思っております。引き続き次年度も皆様方にはご支援とご尽力よろしくお願いいたします。

拍手をもって承認

◇議題 2. 平成 23 年度事業報告及び

平成 24 年度事業計画(案)について

①会報の発行〈中村理事説明〉

23 年度は春号、秋号を合わせて 1 万部。輸送料を 1 冊 120 円で予算を上げております。今回違いますのは会報の 51 号より題字を書道家にお願いしましたのでその謝礼を計上している点です。24 年度は新入生の増加分加味して予算を計上しております。

②総会の開催は例年どおり〈中村理事説明〉

③支部活動援助は例年どおり〈中村理事説明〉

④研究奨励賞〈朔副会長説明〉

5名の方に授与いたしました。今はインパクトファクターで点数化されており、ちゃんとした論文を提出されます。選考委員のサイン入りの賞状をいつもあげています。諸経費もありますが、毎年150万円を予定しております。

⑤在外研究援助金〈林副会長説明〉

福岡大学の同窓の先生(準会員も同様)で海外へ長期(3カ月以上)に留学される時、所属機関責任者の推薦状、受け入れ先の同意と証明書を添えて提出いただきます。理事会にて決定した場合、20万円を給しております。今年度は2名でしたが、たくさんの先生方に留学していただきたいし、できれば援助額も増やしていただきたいと思っておりますが、当座はこれで続けたいと思っております。

⑥学生対策〈林副会長説明〉

現在の学生対策は全体で集まって、まず学生とOBが顔合わせることが大事だとのスタンスで激励会をしています。まず新入生歓迎会、福岡市内で学生を集めますが90%以上の参加があり入学に際して今後のことなどを話し激励しております。次にM4激励会、4年生末にCBTがありますのでそれに向けての激励を意味します。その次にM6国試激励会、昨日今年度の激励会がありまして東京女子医大で国家試験の対応をされています8回生牧野先生に講演をお願いしました。やはり福岡はかなり田舎だと痛感しました。妙に教育論めいたことを言わずに「試験は試験」と思って対応して通らないといけないという、遠い昔予備校で教えられたことを思い出しました。それはある程度リアルでクールなものだと思います。つつい絵に描いた餅のように教育論や、あるべき論を振りかざしてはいけないんだとつくづく痛感いたしました。学生と縁を繋いでおいて、学生から「6年生にこういうことをしてほしい」との意見を聞くことも目的としております。最後にM7激励会、情報交換の場を設け一人にならないようにとの願いを込め、繋がりを持って行きたいと思っております。これらの激励会を通して同窓会に対する認知度を高めて、融和を高めるために行っております。ただ宴会をしているだけではないかのご意見もあるかもしれませんが、そこで顔を合わせた大学内部の同窓の教官と学生の間には「あの先生は福大卒なんだ」という認知度は明らかに上がっておりますので、今後とも続けて行きたいと考えております。

〈重田副会長〉

引き続き白衣贈与と国試対策費の報告を松永先生にさせていただきます。松永先生は学内で非常に頑張られていますが成果が上がらないという状況があります。ご存知のように国家試験の成績が非常に悪かったということで、ご苦

労があると思いますが、今の状況も踏まえまして報告していただきます。皆様のご意見もお聞きしたいと思っております。少し時間をとって話し合いをしたいと思っております。

⑦白衣贈与〈松永専務理事説明〉

5年生のBSL開始前に行っています。3月24日の土曜日に行われまして今年竹下教授より渡していただきました。今年も学生代表からきちんとした御礼の言葉がありました。既にBSLが始まっておりますが、殆どの学生がその白衣を着ております。強制はしてはおりませんが、結構気に入ってくれています。

⑧国試対策費〈松永専務理事説明〉

国試対策には夏期セミナー、講師への謝礼、国試直前の医師のサポート、差入れ等の予算をいただいております。今年に関しましても夏期セミナーについては討議しましたが、是非お願いしたいと考えております。国家試験の悪かった要因ですが、なかなか難しいものがあります。国試の発表が3月19日にありました。その日は福岡大学の卒業式で、卒業証書ももらった後に合格がわかり、その夜が謝恩会でしたが非常に落胆しました。解析をしても結構難しいです。昨年度の学生は比較的勉強しておりましたし、学年の評判も良く成績も例年より良かったので皆さん期待しておりました。6年生のカリキュラムに少し変更があり15種類の各科試験がありましてそれぞれ試験が行われます。それまでは再試験を行っていませんでしたが、昨年に関しては再試験を行うということで再試験の受験率が非常に低下し割と効果があったかなとその時点でも思っておりました。模擬試験はそこそこでしたし、総合試験も昨年一昨年と比べても遜色のないような点数を出しております。第4回目の模試が毎年1月に実施されますが、年末に試験が全部終わってしまうと、遊んでしまう学生がいるとのことでその対策として年明けの4、5、6日という非常に慌ただしい時期にある試験を成績評価の一部に入れております。そのために学生は年末も勉強し続けておりその成績も比較的良かったので期待しておりましたが、蓋を開けてみると散々だったというわけです。幾つもの要因がありますが、1つはCBTの成績です。どの学年もCBTの時から悪いのでその底上げをしています。もう1つは6年生の成績は見かけ上は上がっていますが、本質的にはもう一歩足りなかったことがあります。学生はそれぞれ目の勉強をします。各科試験の時には各科試験の勉強、総合試験があると総合試験の過去問をする、1月の模試を点数に入れると言うと模試の過去問をする、それぞれの過去問をしておりそれぞれ成績は上がります。国家試験にも過去問が出るのですが、その過去問はあまりしていなかったように思います。ぎりぎりまで引っ張ったのが逆に悪かつ

たのかなという形になっています。一部の学生ですが、国家試験の問題には必須問題があり、8割とらないといけない。その対応ができてなかったようです。私は留年生のチームを持っていましたが、7人の内2人合格して5人落ちました。5%が私の責任で国試の合格率を下げたこととなります。5人の内の4人は必須問題で数点足りない(1~2題足りない)形で落ちています。偏った勉強をしていたようです。成績下位の人達が固まりで落ちています。上の方の成績で落ちているのは1名を除いて私の部屋の留年生だけです。必修問題は80点取らないといけないことは毎年変わりますが、今年の国試では一般問題も67%とらないといけない、臨床問題は72%とらないと合格できないという状況でした。更に、過去問も結構出していたことなど色々な要因が重なったと思います。一生懸命やっていたのが逆に裏目に出たかなと思います。申し訳ありませんでした。

〈重田副会長〉

あの日には同窓会にお叱りの電話やメールがどんどん届きました。これは何らかの対策を打たなくてはいけないとのことで、その週にありました理事会での意見をまとめ、学部長への申し入れ書を作成しました。もう1つは会報へ載せます国家試験の結果を受けての会長の文書です。学部長との話の内容を会長お願いします。

〈高木会長〉

発表の翌日お話しに行かせていただきました。今年はかなり良いだろうとの予測だったらしいのですが、かなりの悪さに先生の方がびくかされてました。98人受けて78人合格し20人が不合格なり国試浪人をします。20人という数があまりにも多いので今後どうするのか先生の考えを伺いましたが、現在の学部長が昨年の12月に学部長にならたばかりでしかも福岡大学にいられて3年です。徳島大学におられた時に国試の対策をされた経験の話しをされておりました。既卒新卒合わせての最下位が2回目ですが、新卒の最下位は結構あってしかも最近多い様なのでしっかり対策をして欲しいと直接申し入れをしてきました。

〈重田副会長〉

会長の補足説明をさせていただきます。国試対策とは、つまり、学生対策のことです。全国の大学、特に私立医大ではさまざまな方法で国試対策が行われており、少しでも良い方法があればその情報は直ちに共有され、大方の方法は遅い、早いの違いがあるだけで、例えば、外部テストの導入など全ての大学で実行されており、特効薬的な方法ではないように思います。問題は対策を行ったかどうかではなく、結果であることは言うまでもありません。国試成績不良の責任は、対策を打っても反応しない学生の自己責任であり、学生の質の問題であると言ってしまっ、現在

までこの問題から逃げてきたように思います。

私は、国試対策は、学生対策だけでなくもう一つ重要な問題があると考えます。それは教える側のモチベーションと結果責任の問題であります。私達は、学内の人達の能力やモチベーションが低いなどと言っているではありません。皆さん充分ご承知のことと思いますが、学部では、学内のスタッフは、研究、臨床の合間を縫って、学生教育、国試対策を行っており近年は、新臨床研修医制度の影響で人手不足もあり大変多忙な状況におかれています。

論文や研究、臨床の成果は評価できますが、学生教育や国試対策をいくら頑張っても評価する基準が学内にはありません。

責任問題も含め、この部分を何とかしなければ、学生教育、国試対策に頑張った人達は浮かばれません。学生対策と同時に、教える側のモチベーションを上げる対策も必要ではないかと思っているところです。

〈林副会長〉

今の学内の学生の状態はかなり理解不能なところが2つあります。先生方が学生時代に経験しなかったことがあります。一つは教官の中に先輩が沢山いることです。僕らは教授と言うと雲の上から降りてきた別世界の人と思っていました。今は講義に来る先生の半分以上が先輩です。実習の時について教えてくれる人殆どが先輩です。今の学生がどのような雰囲気にいるのか僕らには解りません。僕らの頃より良いのかもしれないと思います。

もう一つ試験に落ちることに対して恐れがありました。今は4年生位まで殆ど落ちません。きちんと勉強して落ちない訳ではないのでCBT試験でビリになるんです。そのまま上がって6年生になるので中には追いつけない人が出てきてしまいます。それを一生懸命6年生の対策と言ってガンガンやりますが追いつかない。なんでそうなったかはっきりしたことは解りませんが、学生のレベルも高くなったし、人格も認めないといけない、詰め込むのは良くないなどの話しになっている内にこうなったのではないかと思います。今後1年生、2年生の対応から変えざるを得ない時期に来ていると思います。

〈重田副会長〉

成績の良い大学は5年生、6年生で留年を殆ど出さないです。女子医大は5年から6年はフリーパスだそうです。6年生の時留年無しで全員国試を受けさせています。その代わりその前で落とす。5年6年の時は国試に特化した体制で勉強させているようです。福大とは全然違います。福大は4年生までは上げて5~6年で急に絞めるようです。昨日のM6激励会でも6年生が話しておりそこに1つのヒントがあるのかなと思います。

〈朔副会長〉

私も教育する立場ですから同窓会の方から「この成績はなんだ」と言われることに対して大変申し訳無く思っています。意見を同窓会は言うべきだろうと思います。合格率が悪くなると優秀な学生が大学に入らない、そうすると優秀な人達が医局に入らない、業績が出ない、サイエンスが悪くなるという悪循環が起こります。ですから国試の合格率は高くしないといけないと私は思っています。留年した人、男子が悪いことがリスクファクターになると昨日も言われてました。福岡大学は教育計画部もありますが最終的には教授会で、何点まで通すか、何点まで卒業させるか挙手で決めています。合格率に興味のない先生は卒業させても良いのではないと言われることもあり低くなったのも事実だと思います。低学年の時にきちんと判定して落とすべきものは落として行くことも1つです。5, 6年生でもきちんと落とすのも方法ですが、それも福大はきちんとできていなかった。評価の基準が甘かったですね。学生も欠席が大変多く3, 4年生は一年間に100回以上欠席している者が30%位います。週に1~2回しか来ていない状態でも進級して行ったことが1つの問題ではないかといつも言っています。教授会の中でも温度差がありますので中々難しいところがあります。今年は本当に僕たちがこたえています。同窓の先生方からもいろいろなお叱りを受けており強く責任を感じています。

〈鹿児島支部 山下先生〉

松永先生が一生懸命教育していただいて頭が下がりますが、CBTの成績が国家試験に相関していると聞きます。4年生の時の教育が一番大切なのかなと思います。CBTの点数は誰が何点とったか解るんですか?そこをもう少しきめ細やかに見て誰が何点でどこを間違えたかこの学科のどの部分が悪かったか、学生全体のどこが悪かったか公表すればいいんですよ。教授会で。誰が手を抜いて教えているかはつきりするじゃないですか?先生責任持ってやればいいんですよ。それをとやかく言う人間はいませんよ。国家試験の成績を上げるための1つの方法であるわけですからね。それともう1つ、国家試験を受けた時に学生に協力させないといけないと思います。国家試験の問題が後で出ますのでどこを福大の学生が一番間違えたか協力させて集計取るべきだと思います。そういったことやらないとただの教育論だけで、やれ頑張れ、4年生の教育を頑張れ、留年させるぞと脅しかけたって一緒じゃないですか。今まで何であんた達はせんかったかですよ!執行部がほがないからですよ!高木会長あんたがほがないからですよ!そういうことも頭がないんじゃないか!具体的なことはやろうと思えばいっぱいある。この20年間何をやってきたんですか!福大を卒業した1人として残念ですよ!いっぱいお金を

使っているじゃないですか、毎年毎年!何の為に使ってますか?後輩を教育して立派な医者にする為に使ってる訳じゃないですか!国家試験に合格しなかったからと言ってどうってことは無いのかもしれないけど、もう少し執行部が頭を柔らかくして、何が問題で、どの教授が問題かということを出せばいいじゃないですか!内の生え抜きの教授の先生方がそれを引っ張って行くような形をしていかないと、そんなことは朔先生できないですか?

〈重田副会長〉

先生の言われるとおりです。早く学部長になって、大学全体をリードしていかないと同窓会だけではいかんもしいたいです。

〈鹿児島支部 山下先生〉

学生に協力させればいいと思うんですよ。国家試験に落ちた原因はなんだろう、どこを間違えたんだろうとそれを集計して行って、それを積み重ねて行けばいいんですよ。一番簡単なものはCBTの様な気がするんですけどね。それはすぐ把握できるんじゃないかと思います。

〈朔副会長〉

先生の言われるとおりです。模擬試験に関してはそのようなデータが出てきます。CBTはコンピューターですものですから隣の人の問題が違う訳です。それがちょっと難しいかもしれませんが。先生が非常に怒っていただくことが嬉しいです。そういう気持ちで学生教育を捉えていただいていることに対してまた責任を痛感しますし、大変嬉しいものを感じました。

〈北九州支部 坂本支部長〉

この問題は支部でも話題になります。学生担当の松永先生の力というか、ここはちょっと押さえておかないといけないのは、学部内で全一任して松永先生の考えが教授会でも通って、やれ!というものがないと、いくら努力してもある教授は努力しないということは必ず出ると思います。努力しない教授はいくら言っても努力しないのでその分は同窓の卒業生の先生方が教えていくしかないと思います。松永先生への一任を取り付けるような形ができないと思いつきできないんじゃないかと思っています。

⑨支部祝儀贈与 例年どおり(中村理事説明)

⑩学生行事援助(中村理事説明)

烏帽子会賞は西医体、九山において優秀な成績を納めた団体、個人に渡しております。学生行事援助は啓明大学との交換留学に対して支援しております。学生行事参加は謝恩会へ招待される際の祝儀です。

⑪学会寄付(中村理事説明)

今までは計上していませんでしたが学会寄付の件数も増えてきましたので、事業に入れることにいたしました。

規程としては日本がつくメジャーな学会には30万円、それに準ずる全国レベルは20万円、同窓の先生が全日本規模の学会を開催する場合は別格扱い、同窓の教授以外の教授からの援助申請の場合も対応するとしています。それ以外は理事会にて審議して決定いたします。

⑫慶弔贈与 ⑬グッズ作製例年どおり〈中村理事説明〉

⑭会員名簿〈中村理事説明〉

23年度3月発行。1冊の値段と郵送料の減額にて予算より160万程減できております。

⑮パニックマニュアルの発行〈中村理事説明〉

23年度は発行せず

⑯奨学金緊急貸与〈中村理事説明〉

23年度は支給対象者なし

〈重田副会長〉

以上事業計画案について説明いたしました。何かご質問はございませんでしょうか？

ないようでしたらご承認お願いいたします。

承認

◇議題 3. 平成 24 年度収入支出予算(案)

事務局説明

承認

◇議題 4. 決算評議員会省略の件

承認

◇議題 5. 16 期役員改選について

〈重田副会長〉

一番大事な会長の選出におきまして、皆さんの所に立候補の書類が届いたと思います。立候補されたのは現会長の高木先生お一人でございました。後は皆さんのご承認をいただければ引き続き高木会長が続けられるということになります。ご承認よろしいでしょうか？

拍手をもって承認される

〈高木会長〉

16期も会長をさせていただくことになりました。私立医科大学同窓会連絡会西部会が11校ありその会に出席していますが、着実に我々の同窓会は規模・組織共に皆さんの協力の基進んで行っていることを実感します。大学にも協力できるまで成長してきたと思います。この組織を歴史ある久留米大学の様な強い組織のところまで持って行くためにこれから先はまだ長いと思います。私はどうしても国家試験において100人でも100%を実現させたいと思っています。国家試験は大学の問題で我々ができることは非常に少ないと思いますが、100%実現はとても大きな意味を作り出すようです。西部会の仲間である兵庫医科大学が西部で初めて

100%を達成しました。この100%を達成してから兵庫医大が変わりました。受験の偏差値も上がりました。1回100%を達成すると順位が落ちません。この国家試験の結果は入学する人材、卒業生のマッチングにも大きく影響します。国家試験を重点に置いて頑張っていきたいと思っています。

◇議題 6. 子弟の結婚問題について

〈重田副会長〉

同窓会事業も内容は別として予算規模と項目は他大学と比較しても遜色のない充分な事業を進めています。更に内容を充実させることは重要であります何か皆さんのお役に立てる事業ができないものかと理事会で話しをしておりました。その中で結婚間近の子弟が多いという話しになりました。昔の仲人さんの様な方が今おられませんので中々結婚相手が見つからないという現実がございます。特に医者の場合結婚相手を見つけるのは世間より難しいという問題もあります。そういう現状を踏まえて何とか同窓会の様な組織を利用して結婚の斡旋ができないかということで進めて来ましたが。評議員会で説明できる内容が整いましたので田野理事より説明いたします。まず、どういうシステムでやるべきか問題点を挙げていただいて、こういうことが実際同窓会でできるかどうかご検討いただきたいと思います。

〈田野理事〉

同窓会がどの位まで情報を持ち、関与していくかが一番の問題点になると思いましたが、先ず決めたことは同窓会の関与に関しては情報公開のみとし同窓会が各個人の情報を持たないということです。希望されている方の信頼おける仲介者の方に全ての情報を持っていただく、そして、ご希望のある男性側と女性側それぞれの仲介者の間でお話し合いなり情報交換をしていただくことになりました。利用いたしますのは同窓会のホームページです。烏帽子会サイトの一部を利用してそこからログインしていただき情報を閲覧するという方法をとらせていただきます。ログインする時にID、パスワードを必要とするということで、誰もが入れない様にしております。ID、とパスワードを取得するためには同窓会の方に希望される子弟の情報をいただいた時点で発行させていただき、その方のみが開くことができる形にいたしました。

仲介者の方ですが、かなりの方にご足労をおかけすることになると思います。具体的には支部長さん辺りが中心になって仲介者になっていただくことになるのではないかなと思っておりますのでよろしく願いいたします。

対象は卒業生のみといたします。同窓生本人とお子様に限らせていただきます。ホームページ上では他の人に見られる可能性もあることから、個人情報をいっぱい載せるこ

とはいたしません。最低限の情報のみということです。仲介者の方に釣書と写真をお渡しいただきたいと思います。費用のほうですが、新たなホームページを立ち上げる訳ではありませんので立ち上げ初期費用として63万円となっております。アクセス数が増えて来ましたら維持費が増えていくということになると思います。利用の把握をさせていただきたいと思っています。ヒット数を知ることによって利用頻度を推測させていただきます。その仲介者のご厚意により話しがまとまったとか今進行中とかの情報をいただけたらと考えております。当人同士の連絡は一切辞めていただき、仲介者同士でお話しをしていただくことにさせていただきます。

〈重田副会長〉

理事会でもセキュリティのことが問題になりましたが、業者によると「セキュリティを強化しても見られると思った方がよいです。載せる内容は見られてもよいものだけにしてください」とのことです。後詳しい情報は仲介者に聞いて下さいという、あくまでホームページ上に載るのは最低限の情報で、こういう男性、女性がいるんだと解る程度が良いとのことです。

〈北九州支部 坂本先生〉

お見合いなので当人の本気度が問題ではないでしょうか。親の意見で登録する方がおられると思いますが、このような狭いサイトでいくと本気度が本当にないと会おうという気持ちにならないと思います。ただ登録すれば良いものではないので本当に本気でないと作れないのではないのでしょうか。

〈福岡支部 山崎先生〉

少しでも出会う機会を増やすという意味ではこういうシステムは重要なと思います。運営において仲介者の手間が随分かかるのではないかと思います。そこを理解していただかないと回らない可能性があるため運営としては大変だと思います。

〈大分県支部 鬼木先生〉

親も賛成、子も賛成で話しが進んでる間に彼氏や彼女ができたとかいろいろありましょうが、その時は削除するのかなど細かいところまで必要だと思います。仲介者においても詳しい釣書が届いても進める自信が湧いてくるかどうかだと思います。問題が仲介者の負担だと思います。

〈田野理事〉

仲介者を選ぶ場合に信頼のおける仲介者を置いて仲介者の熱意によりというところは重要で成功はそれにかかってくるだろうと思います。こういう情報を載せることによって支部の中でも話題作りにはなるでしょうし、支部と支部との間にも話題作りになると思い提案させていただきました。

〈重田副会長〉

こんなこと同窓会は辞めた方がよいという方がおられたら無理かなと思いますが、割と話す切実なんですね。友人同士でもそれぞれの子どもの結婚の話は当たり前に出ますしどうかならんと言われることも多いのでシステムティックにしてもできないことはないかなとは思いますが、いかんせんこんな時代ですからセキュリティとか個人情報の問題がひっかかるのでそのところを皆さんから納得していただければ載る内容は同窓会名簿と変わらない内容です。それに娘さんや息子さんがいるという情報ですからなんとかいけるのではないかなとは思いますが。同窓会自体ではなく仲介者の方が動いていただくので仲介者が一番の問題かなと思います。実際実行してみてもどうかは実感が湧かないのも確かです。

〈筑後支部 宿里先生〉

先程支部長が仲介者になる可能性が高いということでしたが、仲介者同士の話し段階で話しがダメになった時、誰が支部長かわかりますので、個人から支部長にクレームの電話など起こりうると思うのですがその所はいかがでしょうか？

〈田野理事〉

信頼できる仲介者に文句を言ってそれを受け止めてくれる仲介者だとありがたいですね。

〈重田副会長〉

支部長という名前を出すと責任を感じるようになりますので、希望としては支部長さんがそういう役割を果たしてくれば有り難いなというスタンスだと思います。支部長さんが責任を負う必要もないし負える訳もないですからね。

〈大分県支部 鬼木先生〉

福大卒の後輩の子どもが、何度福大を受けてもすべるという例もありクレームを受けることもあります。責任を負うようなことはなかなか厳しいものもあります。支部長の立場を理解していただいた上で、例えば、同窓会が今後子弟入学に力を入れて入学者が増え不満が少なくなるようなことになれば、仲介者を引き受けることもできないことはないでしょう。

〈田野理事〉

その様な可能性があるところは利用規約に織り込んで承いただく様な形にしたいと思います。

〈重田副会長〉

田野先生とバイタリティーとやる気を持って、この事業を立ち上げるということでご承認していただいてよろしいでしょうか？

拍手をもって承認

◇議題 7. 福岡大学医学部同窓会烏帽子会
第31回総会案内

花田弘文先生より説明あり

原案通り承認

学生対策報告

〔M6 国試激励会の報告〕

M6 主担任 朔 啓二郎（1回生）

医師国家試験の合格率が最近低迷していますが、そこで様々な方法を駆使して対処している一つに激励会があります。M6 学生ほぼ全員、主・副担任、および 10 名程度の福岡市近郊の OB 医師で食事をするのですが、今年は例年になく変わった企画をしてみました。東京女子医大産婦人科学教室准教授の牧野康男先生（本学第 8 回卒業生）にきていただき、女子医大での国試対策の詳細を話していただきました。牧野先生は女子医大の国試対策委員をされていますが、本学の成績に危機感を感じられ、自ら私達に連絡してくださいました。奥様の郁子先生は本学第 15 回

卒業生ですが、この日ご一緒に参加していただきました。講演の後、食事をとりながら、M6 学生さんと牧野先生、OB の間でディスカッションの時間です。これが大変よかったです。色々な思いがありますので、学生さんもただ激励会に参加して食事するのではなく、意見をぶつけ合う、楽しかったですね。この会の後、直接牧野先生にメールで連絡をとり、指導を仰いでいる学生もいます。医学部の学生はエビデンスに基づいたディスカッションを好みますが、国試のエビデンスは学生の努力にかかっているため起死回生の一撃を来年 3 月には期待しています。



2012 年度 M1 新入生歓迎会を終えて

M1 主担任 竹 下 盛 重（3回生）

本年 5 月 24 日、福新楼において本年度の M1 新入生 98 名の歓迎会を行いました。この会の参加者総数は 112 名でした。この学年の主担任は私竹下、主副担任は内分泌糖尿病科柳瀬敏彦教授、他 8 名（OB は溝口病理学講師、山内消化器外科講師）が担当することになりました。この会には主、副担任共に

全員出席して頂きました。フェリル先生、谷原先生、本田先生等暖かい応援を頂いております。今年の新入生の印象はとにかく元気がよく、しっかり会話ができる点だと思います。下記に、各班が話合っただけの 6 年間ですることのスローガンがありますのでお楽しみください。本 M1 の学生リーダーは田中航君、サブ

リーダーは関千尋さんに決定しました。また、定例幹事会で校歌をしっかりと身につけさせることが本年度より決定しましたので、来年度担当者は引き継ぎをお願いいたします。入学当初より学部長、教務委員から医学部教育の厳しさをいわれておりますが、M1全員が前を向いて元気に、勉学のみならず、クラブに、恋に充実した実り多い6年間を過ごすことを切に希望します。烏帽子会の皆さん、ご支援、ご声援のほどよろしくをお願いします。

スローガン

- 1班 短期的目標 8月のテストで良い点を取ること
長期的目標 これからの人生を楽しく過ごすこと
- 2班 短期的目標 骨単を全て覚えること
長期的目標 皆と仲良くしながらも切磋琢磨して成長していきたい
- 3班 短期的目標 班員全員一緒に卒業
長期的目標 何事にもアグレッシブに行動すること
- 4班 短期的目標 常に一瞬一瞬何をする時でも後悔しないように全力ですること。
その気持ちを貫いて6年間頑張る
長期的目標 6年間を全力で楽しみ人として

成長していくこと

- 5班 短期的目標 千里の道も一歩から、取りあえず2年生に全員進級すること
長期的目標 6年後に全員で国試に合格すること
- 6班 短期的目標 文武両道を貫いていくこと
長期的目標 OBの方々のように医者って楽しいなどと言えるように頑張ること
- 7班 短期的目標 お互い切磋琢磨して全員で国試に合格すること
長期的目標 胸を張れる人生を送ること
- 8班 短期的目標 皆で団結して切磋琢磨しストレートで国試に合格すること
長期的目標 人間としての器と医者としての知識・技術・思いやりの三種の神器を身につけ、患者さんから感謝される医者になること
- 9班 短期的目標 留年しないこと
長期的目標 誰に対しても誠実に生きていくこと
- 10班 短期的目標 TOEICで良い点を取って単位を消すこと
長期的目標 同窓会役員になって皆のために働くこと



医師国家試験対策夏期集中講座の報告

専務理事 松 永 彰 (3回生)

夏期集中講座は、7月20～22日の3日間、福岡大学セミナーハウスで開催された。

また、集中講座修了翌日から医学部主導で2週間、牧野方式で自主学習させるM6夏期特別国試対策2012も行われた。

夏期集中講座は、牧野、竹下、廣瀬、早田、鍋島、福原、猪狩、白石、伊藤の同窓の先生方を中心に、内科、小児科、婦人科の先生方にもお願いして、90分講義を1日5～6コマの構成で行った。夏期集中

講座に参加した学生は22名であった。今回は、一部しか受けない受講生がやや多く、全て16講義を連続して受講した学生は約半数であった。ただし、受講した学生はまじめに充実した講義を受けており、学生に対するアンケートでも、講義内容は概ね好評で、ためになったと答えていた。

また、今回の集中講座では最終的に宿泊したのは3名のみであり、来年は宿泊しないやり方も検討が必要と思われた。

M7 懇親会の報告

専務理事 松 永 彰 (3回生)

医師国家試験を再度チャレンジする仲間と同窓会の先生方(OB)との懇親会が、8月31日に博多都ホテルで行われた。9名の仲間が集まり、OBも高木会長、権藤福岡支部長、柴田教授、林教授など8名のご出席を頂いた。9名の仲間にご自己紹介と現在の状

況を報告してもらい、OB側も自己紹介や自身も昔苦労した話などを語り、終始和やかな雰囲気で行われた。今回集まってくれた仲間も、来年は医師となり、福岡大学医学部OBとして活動することを誓って、今回の懇親会は終了した。

2012年M4 学生激励会を終えて

専務理事 竹 下 盛 重 (3回生)

9月7日、タカクラホテルにM4激励会を行いました。参加者は学生58名、主担任の山下裕一病院長、主副担任白澤専二教授、副担任内田直樹先生、同窓会より12名が集まりました。本年は講演に福岡大学出身で現在東京女子医科大学産婦人科の准教授であります牧野康男先生に来て頂き、国家試験、C B T問題の効率的な勉強方法や女子医大の活躍ぶりや内部の福大出身者等を紹介して頂きました。さて、現在福岡大学の国家試験は最低の状況にあり、M4学生が自覚して積極的に勉強し実力をつける必要があります。また、M4学生の実力はそのまま国家試験にも反映し重要な時期でありますので、内部のOBはかなり注意深く見ておりますし、また授業等で指導、激励しております。その中でこの激励会を行いました。目的が不明確であり、学生の参加が年々低

下し、本年は60人を切りました。M5年になると全員での催しができませんのでM4学生全員が集まる良い機会であり、是非続けていく必要があると思います。どちらにしても、魅力的な講演会や学生が企画するイベント、M3やM5、6年生を10-20人程度入れる横断の企画等が必要かと考えております。また、9月定例幹事会でも同様な話合いがなされました。よいアイデアがありましたら、ご連絡ください。最後に、M1-M6までの学生においては、勉学での充実を計ることに加え、クラブ、趣味を含む勉学以外の部門での活躍を切に願います。また、学内OBは少しでも強く学生を思いやる気持ちを持って学生に接することを希望します。M4激励会が良い意味の医局勧誘会やクラブの交友会になってほしいと思います。

支部便り

第 35 回烏帽子会 北九州支部総会を記念して

北九州支部長 坂 本 博 士 (2回生 医療法人 坂本眼科医院 理事長)

烏帽子会の皆様にはこの紙面をお借りして、日頃のご無沙汰を陳謝するとともに、北九州支部の最近の活動報告をいたしたいと思えます。

本年6月2日、烏帽子会北九州支部総会を開催いたしました。第35回の記念総会でもあり、多数のご来賓の参列をしていただきました。烏帽子会高木忠博会長始め、福岡県医師会より原文彦副議長(4回生)、宗像病院 長谷川伸一理事長(2回生)、有信会北九州支部より小松良明副支部長以下5名の有信会理事、西川京子元厚生労働副大臣、福岡県議会吉村はるか議員、第35回記念講演をしていただく福岡県医師会松田峻一良会長、北九州医師会合馬紘会長、北九州市耳鼻咽喉科瀆之上隆史会長、小倉産婦人科大久保信之会長など多数の出席を賜り、北九州支部烏帽子会会員合わせて60数名のご参集により支部総会、引き続き講演会、懇親会が盛会に行われました。

松田福岡県医師会会長には<県医師会としてのあり方>としてのご講演をしていただきました。1時間もの熱演講演ありました。まず会長自身の学生時代、麻酔科研修時代(壇教授の下)、開業して県医師会での活動を通して県時代から日本医師会副会長の横倉義武先生を間近に見てこられて、日本医師会の問題を深く憂慮されていた横倉先生の日本医師会

長の誕生への道のりをお話していただきました。日本医師会のスタンスとして、これまでの政権与党への依存から脱却し、日本医師会の原点である、国民の健康を守り、国民のための医療の政策提言、医療供給体制の構築、救急医療対策、地域の現状に合わせた医療体制など、国民目線に立脚した、政治的中立性の高い、医療政策を提言した横倉新会長の誕生への経緯は、我々拝聴するものにとっては日本医師会の将来の役割を示すものでもありました。

松田会長の講演は現医師会会長がこれだけ身近でざっばらんの中にも、一つの哲学を持ち、医師会や医療行政にたして、一つの方向に導いていく覚悟を持ちながら活動をなさっていることが十分我々にも伝わりました。その後質疑応答があり、蛭崎君からは、今後の医療行政、日医連盟について、重田君から私学同窓会について、新臨床研修制度の問題など質問し、会長からは、県医師会員としての意識の共有の問題、医局制度のありかた、社会福祉法人の問題点など丁寧にお答えしていただきました。最後に松田会長に感謝の意を表して烏帽子会北九州支部総会恒例のネクタイを贈呈いたしました。

懇親会は高木会長のご挨拶を賜り、原副議長の乾杯の御発声で賑やかにも楽しい、また35回という意義深い記念祝賀会となりました。



1 烏帽子会北九州支部総会のあゆみ

烏帽子会北九州支部は6月頃、総会と特別講演を開催しており、同窓会会員の交流を通して福岡大学医学部の卒業生として、そのアイデンティティを高めるとともに、お互い切磋琢磨しながら、

合わせて本学の後輩に対して愛情を持って応援するものである。この総会には必ず同窓会会長にご列席していただき、同窓会の理念、希望ある未来を熱く語っていただいています。（担当 管朗）

回	年月日	演 題	講 師
26	H15. 6.21	「病理学と臨床医学のはざままで」	福岡大学医学部病理学講座 第一教授 菊池 昌弘 先生
27	H16. 6.19	「消化管悪性リンパ腫の組織分類と その特徴」	福岡大学医学部病理学講座 教授 竹下 盛重 先生
28	H17. 6.25	「破格筋の本態解析の一例」 - 閉鎖神経の前枝及び後枝によって 二重支配される短内転筋の本態-	福岡大学医学部解剖学講座 教授 宮内 亮輔 先生
29	H18. 6.10	「超音波治療の最前線」 - 癌・脳梗塞から遺伝子治療まで-	福岡大学医学部解剖学講座 教授 立川 克郎 先生
30	H19. 6. 9	「日本の医療の現況と展望」	参議院議員 西島 英利 先生
31	H20. 7.26	「呼吸器疾患への最新外科治療」	福岡大学医学部外科学講座 教授 岩崎 昭憲 先生
32	H21. 7. 4	「心臓病治療の新しい展開」	福岡大学医学部心臓・血管内科学講座 教授 朔 啓二郎 先生
33	H22. 6. 5	「小倉記念病院循環器科の病病連携に ついて ～ 35年間の歩み」	社会保険小倉記念病院循環器科 主任部長 岩淵 成志 先生
34	H23. 6. 4	「抗加齢医学（医学の新しい潮流）と 福大病院の将来像」	福岡大学病院副院長・ 福岡大学医学部整形外科学講座 教授 大慈弥 裕之 先生
35	H24. 6. 5	「福岡県医師会のあり方」	福岡県医師会 会長 松田 峻一良 先生



2 烏帽子会北九州支部臨床研究会のあゆみ

春、秋の年2回おもに本学で活躍期待される先生をお呼びして講演会を開催しています。(担当 重田 正義)

回	年月日	演 題	講 師
20	H15.10.10	「一般診察室で診る泌尿器科患者」	梶原内科泌尿器科クリニック 梶原 一郎 先生
21	H16. 2.20	「ここまでのMRI： 鉙散強調画像とMRtractography」	福岡大学病院 放射線科 助教授 宇都宮 英網 先生
22	H16.10.15	「結核及びその関連疾患」	天神クリニック 院長 菅 朗 先生
23	H17. 2.25	「症候性頭痛の治療： 最近の脳神経外科診療」	福岡大学病院 脳神経外科 助教授 山本 正昭 先生
24	H17.10.21	「緑内障の最近の話題」	内田眼科医院 内田 浩太郎 先生
25	H18. 2.10	「消化管疾患に対する外科治療の返還」	福岡大学筑紫病院 外科 助教授 二見 喜太郎 先生
26	H18.11.11	「チャンネル病としてのてんかん」	福岡大学医学部 小児科 主任教授 廣瀬 伸一 先生
27	H19. 3. 2	「消化器癌に対する内視鏡治療の進歩」 - 内視鏡的粘膜下層剥(ESD)について -	戸畑共立病院 消化器センター長 宗 祐人 先生
28	H19.11. 9	「動脈硬化性疾患の治療戦略」	福岡大学筑紫病院 心臓血管内科 准教授 松永 彰 先生
29	H20. 3.27	「今、小児救急医療の現場は」	福岡大学筑紫病院 小児科 教授 小川 厚 先生
30	H20.11.27	大腸癌治療ガイドラインと外科治療」	福岡大学筑紫病院 外科 教授 前川 隆文 先生
31	H21.12. 3	「疼痛性肩関節疾患の診断と治療」	福岡大学筑紫病院 整形外科 教授 柴田 陽三 先生
32	H22.12. 2	「大動脈疾患の最新外科治療 ～適応のタイミングと術式の選択～」	福岡大学病院 心臓血管外科学 准教授 森重 徳継 先生
33	H23. 3.24	「いま、大学病院外科に求められるもの - 最先端医療から最前線医療へ -」	福岡大学病院 消化器外科 診療教授 田中 伸之介 先生
34	H23.12. 2	「ARB+CCB 合剤の使用経験」	引野口循環器クリニック 穴井 堅能 先生
		「最新不整脈治療は どうなっているのか!？」	福岡大学医学部 心臓血管内科学 准教授 小川 正浩 先生
35	H24. 3.29	「結石性急性胆道炎の診断と治療」	福岡大学筑紫病院 消化器内科 准教授 植木 敏晴 先生



会員寄稿

ゼロ・ポジションで

東京大学 形成外科・美容外科 三原 誠 (25 回生)

医学生時代に受けた原正文先生(久恒病院院長・福岡大学臨床教授・福大 2 回生)の講義を、卒後 11 年目にして再び受けました。原先生の授業(スポーツ整形外科)は、医学部 3 年生、4 年生の時に受講し、有名プロ野球選手(当時は野茂投手、工藤投手)の肩診療について話を頂き、大変に楽しい授業だったことを今でも覚えています。今回は東京大学整形外科・肩関節診療班の研究会(2012 年 8 月 18 日開催)に講師として招かれ、1 時間半の講義を東京港区の高層ビル講義室(参加者 50-60 名)でされました。私も縁あってお誘いを受けたので、参加させて頂きました。怪我をしたスポーツ選手達に「夢を与えよう!」と、10 年以上前と全く変わらずエネルギッシュな診療を続けておられる姿に大変感動しました。

当時、3 年生、4 年生だった私は医学部へ入学してきた時のフレッシュな気持ちをだんだん忘れ始めて、授業もサボりがちとなり、毎年 7-8 個は再試験(本テストを落第した学生が受けるテスト)を受け、やっとの思いで進級していました。そういった学生生活もマンネリ化した状態で原先生の授業を受けました。結論から言うと、原先生が患者さんへの診療を大変に楽しんでおられ、また、福岡の片田舎の病院(原先生、すみません!)にもかかわらず、日本中のプロ野球トップ選手(現在では、松坂投手、藤川球児投手、田中将大投手)が診察に来ていることをお聞きし、当時失っていた医学への探求心・挑戦心を大いに揺さぶられた事を思い出してきました。「医学とは!、お医者さんの仕事とは!、こんなにおもしろいモノか!!」、原先生の授業を受けた後、このような考えがグルグルぐるぐると頭の中を駆け巡り続けたことを覚えています。あまりに大きな衝撃を受けて、私はその夏に東京の有名病院(特にスポーツ整形外科)の門を叩いて、見学することとしました。3 年生、4 年生の時は学年では落ちこぼれグループだった私も、見学に行った様々な

施設で刺激を受け、段々と医学の面白さに魅せられ、5 年生の BSL テストで学年 5 番以内まで成績が上がり、当時難関と言われていた虎の門病院外科レジデントの試験にも合格、現在では東大病院形成外科の軸として楽しく仕事をさせて頂いています。

今回の題名としたのは原先生の講義でもしばしば出てくるキーワード「ゼロ・ポジション(zero position)」です。ゼロポジションとは、投手にとって最も大事な肢位、簡単に言えば力の抜けたナチュラルな位置だそうで、このゼロポジションが上手く取れることが怪我を無くし、ハイパフォーマンスを継続的に発揮するキーポジションだそうです。私はマンネリ化した学生時代、原先生の講義を聴き、医学部に入った時の新たな気持ち、「ゼロ・ポジション」再認識させてもらったのだと思っています。そして今回、卒後 11 年目にしてまた新たな気持ち、日々の診療、手術手技の向上、知識・経験、臨床の勘(観)を磨くといった医師にとって非常に重要な心構えを思い出させて頂きました。

今年の福岡大学の国試合格率は全国ワースト 1 と聞きました。私自身がマンネリ化した学生生活を送



原正文先生(中央)との写真

左が著者、右が原先生の御令嬢(原尚子先生・東大形成外科勤務)

っていた頃を思い出しても、福岡大学には良きにつけ、悪しきにつけのんびりとした雰囲気は漂っていた気がします。学生の皆さんは、医学部に入って来たとき持っていた医学へ挑戦する気持ちを思い出し、(自分の心をゼロ・ポジションに戻して)東京や海外の医療施設、学閥等とは関係なく活躍されている先生方の話をどんどん聞きに行き、見学に行き、多くの刺激を受けてみてはどうでしょうか?臨床講堂の中だけではわからない、医学の本当の面白さを実感できると

思います。そして医学に興味を持ち、面白くなってきたら、どんどんと勉強に本腰が入ってくと思います。学年内に1人、2人、3人、とそういう刺激された人たちが増えれば、国試合格率なんていくらでも挽回できると思います。まずは、自分が目標としてみたい先生方の門を叩いてみて下さい。君たちが思っているより、お医者さんの仕事は奥深く、面白く、そして患者さん達に喜んでもらえる仕事ですよ。



講義風景

社会人野球を引退したばかりの投手を公開診察

夢と東京と仕事

正木 稔子 (26 回生)

email:toshikomhrmt228@yahoo.co.jp

みなさん、こんにちは!

烏帽子会会報に初めて投稿します。26 回生の正木稔子(まさきとしこ)と申します。今年、卒後 10 年目です。

私は現在、東京都にある耳鼻咽喉科のクリニックで非常勤医師として仕事をしています。他にもなぜか講師というお仕事も時々いただき(漢方薬、食事指

導、進路指導など。12 月には福岡大学同窓会の有信会東京支部にも講師として呼んでいただいています)日々忙しく、楽しく過ごしています。私の出身は北九州市。私が縁もゆかりもない土地に来た経緯をお話しし、お世話になりました先輩方・同級生へのご報告に替えさせて頂くとともに、後輩の皆様への参考にさせていただければと思い、筆を執りました。



日本大学のホームページ写真撮影での1枚

私は大学時代、バスケットボール部と音楽研究会を兼部、西医体委員や相和会委員長もしていました。現在でも音楽は続けていて、月に一度はライブハウスのセッションイベントで歌っています。ライブハウスに行くと、音楽を通して多くの人と出会うことができます。私にとって音楽は自分の世界を広げるためのツールです。そこでいろんな方と接し、いろんな考え方を聞きます。これが診療の質の向上の大切な手段なのです。

耳鼻咽喉科を専攻したのも、この「音楽」が理由です。もちろん、学生の時は他の科も考えました。救命救急、泌尿器、小児科、循環器。私たちは研修医制度が入る前の最後の学年でしたので、6年生の時これからの人生についてじっくり考えるいい機会となりました。女性として将来どんな生活をしたいのか、医師としてどんな診療をしたいのか、小さな頭で考え得る範囲、精一杯思い巡らしました。

「どう考えても、音楽とはつながっていたい」というのが当時の結論。バンドでヴォーカルをしていると言っても所詮素人ですから、素人なりにプロの方のお役に立てれば嬉しいし、自分も音楽と繋がっていられると考えたのです。

私が着目したのは「声」でした。音声の専門は当時福岡県内の大学病院には存在せず、そしたら都会に出て行くのが妥当な手段だろうと上京を決意しました。私が調べた限り、東京で音声の専門は東大、慶応、日大

でした。そこで、19回生で当時筑紫病院にいらっしやった一番ヶ瀬崇先生と森本健三先生から、同じ19回生で順天堂病院に入局された奥川（旧姓池田）真理子先生を紹介していただきました。また24回生の重森裕先生に日大をご紹介いただき、見学に行くことができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。こうして、先輩方の紹介を基に東京の病院を数件（日大、順天堂、慈恵、広尾日赤）見学に行きました。そして、最終的に決めたのは雰囲気合う日大でした。決定打には雰囲気も大事でした。今考えると「そんなことが理由でよく上京したな…」と思うのですが、卒後10年、「どうして縁もゆかりもない東京に、今もいるの?」と問われる機会も多く、それに対してははっきりと答えることができます。将来について可能な限り考えたということに意義があったと今は思います。

話は戻って日大に入局後、それはそれは厳しい毎日を送りました。日大は音声の専門の他に、主に頭頸部外科、更に耳や味覚・顔面神経と同じ医局に多種の専門の先生がおられ、患者さんは多岐に渡り、声帯の微細な手術、耳の手術、顔面神経の外来から勉強会、頭頸部外科では診断・治療・看取りまで。もう勘弁してくれと思うようなことも多々ありましたが、今思うと逃げずに取り組むことで見えてくることがあったなど、つくづく思います。その一つ、頭頸部癌末期のある患者さんとそのご家族との関わりが、私の進む道を変えました。患者さん本人とじっくり最期について



左から、深堀理さん、助川玄さん、川口新治さん、深水康吉さん、私、福田ゆりさん、薦野晃さん

語り合い、ご家族の思いや希望を聞き、私はまるで親戚にでもなったかのように自分ができることをしようと走り回りました。患者さんが亡くなった後、ご家族からお手紙を頂きました。表面上の感謝の言葉ではなく、父との思い出を先生と分かち合いたいと綴って下さった言葉は、私にとって何とも表現しがたいよこびで、患者さん本人だけではなく家族のためにも医療を行うという方向性をみつけました。

耳鼻咽喉科の専門医を取得して日大を退局、その後クリニックで非常勤医師として診療を開始しました。夢は叶い、歌手や俳優の方々を陰で支えています。今は漢方という手段も利用し、患者さんと個人的な話をすることで形だけの医療ではなく、心と体の関係に目を向け、より生活に密着した医療を目指しています。また、人生最大の危機を迎え身体に不調をきたして来院した患者さんからは、私の方が人生の勉強をさせていただいています。

東京では、福岡から出てきている仲間が集まって時々飲み会をしています（飲み会の写真）。同じ福岡大学医学部というだけで、初めてお会いする方もたくさんいますが、仲間がいると思うだけで私の心は強くされます。

また、現役生の後輩の方々が東京に来るときには連絡をくれます。一緒に食事をしながらいろんな話を聞いていると、私は東京に来てよかったんだと思え、とても大きな励ましとなっています。後輩のみなさん、ありがとう!これからもよろしく願います。

私には、博士号や他の資格や肩書きや職歴もありません。しかし、自分にできる得意分野を最大限に利用して、人の役に立つことをやりたいという気持ちだけは強く持ち続けていきたいと思っています。

東京にいらっしゃる際には、toshikomhrmt228@yahoo.co.jpに是非ご連絡をください。Facebookもやっています。私を知りうる範囲で病院の紹介もできますので、現役の学生さんからのご連絡・ご相談も大歓迎です。

また、MM 97 台の同窓会をやる予定で連絡係を任せてもらっています。詳細をお伝えしますので同級生の方、ご連絡お待ちしております。

まだまだ書き足りませんが、長くなりますのでここまでしておきます。

先輩、後輩の皆様の益々のご活躍をお祈りいたします。



10月6日。音研の後輩たちと。

上段左から、豊田理雄くん、雪野広樹くん、山本太平くん

下段左から、中里玲さん、伊東和俊くん、私、雪野満くん、諸江将太くん。

将来を見据える後輩たちを誇りに思います。

キャンパスだより

《烏帽子会賞受賞者名簿》

愛好会名	受賞者	受賞対象
柔道愛好会	団 体 表 彰	第 63 回西日本医科学生総合体育大会柔道部門優勝
	団 体 表 彰	第 51 回九州山口医科学生体育大会団体戦優勝
	梅 谷 聡 太	第 51 回九州山口医科学生体育大会個人重量級優勝
	竹 山 文 徳	第 51 回九州山口医科学生体育大会個人中量級 2 位
水泳愛好会	団 体 表 彰	第 63 回西日本医科学生総合体育大会水泳女子部門総合 4 位
	前 田 奈 々 恵	第 63 回西日本医科学生総合体育大会女子 50M 平泳ぎ 3 位
	高 岡 千 容	第 63 回西日本医科学生総合体育大会個人 2 種目 3 位
	大 野 , 前 田 , 高 岡 , 下 地	第 63 回西日本医科学生総合体育大会女子 200M メドレーリレー 2 位
	団 体 表 彰	第 51 回九州山口医科学生体育大会水泳女子部門優勝
	高 岡 , 大 野 , 吉 見 , 船 越	第 51 回九州山口医科学生体育大会女子 200M フリーリレー優勝 メドレーリレー優勝
	大 野 , 前 田 , 高 岡 , 船 越	第 51 回九州山口医科学生体育大会女子 200M メドレーリレー優勝
	高 岡 千 容	第 51 回九州山口医科学生体育大会女子 100M,50M バタフライ 1 位
	熊 谷 浩 紀	第 51 回九州山口医科学生体育大会男子 200M 個人メドレーリレー 1 位,100M 自由形 2 位
アーチェリー愛好会	児 玉 英 也	第 5 回西日本医科学生アーチェリー競技大会男子個人準優勝
サッカー愛好会	団 体 表 彰	第 51 回九州山口医科学生体育大会準優勝
準硬式野球愛好会	団 体 表 彰	第 51 回九州山口医科学生体育大会優勝



烏帽子会賞を受賞して

柔道愛好会 梅谷 聡太 (M2)



今回、九州山口医科学学生体育大会（以下、「九山」）柔道個人戦重量級部門で優勝し烏帽子会賞を受賞させていただきました。このような機会を設けてくださった烏帽子会の先生方に心より感謝いたします。また、柔道愛好会部長の竹下先生、監督の黒岩先生を初めとする多くの方々にお世話になりました。ありがとうございました。

私の座右の銘は「努力は実る」です。途中どんな大きな壁があっても諦めず目標に向かい努力すれば

いつかは実現することができると思っています。ですから、今回の大会も個人戦優勝という目標を実現するため血の滲む様な努力をしました。週三の練習の後には必ずランニングをし、それ以外の日には他の道場やジムに行きました。また、勉強もサボることなく続け、練習前後の時間、授業の休み時間や昼休み、それでも足りないときは朝早く起き勉強しました。文武両道は大変でしたが、現在同じく柔道愛好会に所属している兄の支えもあり、個人戦重量級部門で愛好会初の優勝を果たせ、とても嬉しく思います。

最後になりますが、現時点で「九山」個人戦優勝、団体戦二連覇、西日本医科学学生体育大会二連覇、全日本医科学学生柔道王者決定戦準優勝（以下、「全医体」）という満足な成績を収めることができました。しかし、まだ「全医体」で優勝できていないことが私の唯一の心残りです。そこで、私は卒業するまでに必ず「全医体」で優勝したいと思っています。そして、全国へ福岡大学医学部の名を轟かせる事が出来れば幸いです。

水泳愛好会 活動状況報告

福岡大学医学部水泳愛好会 下地 和香子 (M3)

我々水泳愛好会は月水金の週に三回、本学のプールで活動しています。現在愛好会には男子18名、女子18名が所属しており、皆練習に熱心に取り組んでいます。練習では初級・中級・上級と分かれて練習メニューをこなしていましたが泳力を考慮して超上級なるコースをつくり更に個人個人に合った練習ができるように工夫しています。

去年大阪で行われた西日本



医科学学生総合体育大会では女子総合4位という結果を残す事ができました。また今年大分で行われた九州・山口医科学学生体育大会では女子総合1位、男女総合3位、個人でも多くの入賞者が出ました。

水泳は個人競技ですが、皆で声を掛け合い励ましあったり、頑張っている姿を身近でみる事により一人でこなすのは難しい量の練習を諦めることなく

こなせているのだと思います。春休みには合宿があり普段より厳しい練習を行っています。そのような練習を一緒に乗り切るにより学年を問わず団結力を高められたのではないかと思います。

男子女子ともに今まで以上により成績を残せるように頑張ってもらいますので、今後とも我々水泳愛好会を宜しくお願いいたします。

大学での水泳再出発

福岡大学医学部水泳愛好会 熊谷浩紀 (M2)

私は幼いころから水泳を習っていましたが、進学した中学にプールがなかったので他の部活動に入部し、両立が難しくなりました。入部したのがチームスポーツだったこともあり周囲への迷惑を考え、水泳をやめました。中高生の間は泳ぐことなく過ごしましたが、高3で部活動を引退した後、受験勉強の合間に運動をしたくなり数年ぶりにプールに行くようになりましたが、1人で泳いでいても昔のような楽しさを感じられず、次第に回数も減っていききました。

そして福岡大学に進学が決まり、他の部活動も気になりましたが、母に勧められたこともあり、もう一度水泳を頑張ってみようと思い、入部を決意しました。入部してみると部員同士の仲が良く、先輩たちはいい人ばかりですぐに馴染め、練習も体を無理なく慣らしていくことができ、体が成長していたこともあり、すぐ

に昔の自分のタイムを抜きました。

水泳はリレーを除くと個人競技と思われがちですが、それぞれの目標に向かって努力して、同じように目標に向かっていく仲間と共に頑張っていく中で、苦しみもありますが、喜びや楽しみを感じることができるので、大学で部活動として再び水泳を選んでよかったと思います。



6年間で振り返って

アーチェリー愛好会 児玉英也 (M6)

アーチェリーを始めてもう6年も経つのだと思うと感慨深いです。

最後の西医体として臨んだ今大会で準優勝という結果を挙げる事ができ、とてもうれしく思っていま

す。もちろん優勝を目指していましたが、自分のベストを尽くす事ができたので満足しています。今年度で自分は大学を卒業しますが、今のアーチェリー部にはしっかりした後輩たち、そして今年入部してくれた

にぎやかな1年生たちがいるので安心して任せられます。これからもみんなでアーチェリー部を盛り上げていってください。

最後になりましたが、自分がこうして6年間部活を続けてこられたのも顧問の宮本教授をはじめ、OB会長の坂田先生、OB・OGの先生方、そして部活の先輩・後輩の支援があったからだと思います。卒業してからも機会があればアーチェリーを続けていきます。本当にありがとうございました。



決勝の舞台に立つこと

サッカー部キャプテン 藤田 晃 浩 (M4)



恥ずかしながら、4年生でキャプテンをするまで全く烏帽子会賞の存在を知りませんでした。烏帽子会理事で、サッカー部OBでもある岩隈先生から「表彰してもらえよ」という連絡を頂き、初めて烏帽子会賞の存在を知りました。今回は準優勝ながら烏帽子会で表彰して頂きとても嬉しく思っております。ありがとうございました。

この話を聞いた時、「どうせなら優勝で表彰しても

らいたかったな」とも考えましたが、実際に九山を振り返ってみるとそう簡単に優勝できるものではなかったなと痛感させられます。初戦から想像以上の苦しい試合が続いて、決勝戦にたどり着くまでに体力や精神面ですでに精一杯の状態でした。しかし、最後はお互い疲れ果てた者同士の戦い。結局は負けてしまいましたが、勝ち負けは僅かな差に見えて実はとても大きな差がある。そう感じました。相手も福大も、優

勝するために（練習以外でも）たくさん積み重ねてきたものがあり、それらを総合して負けていたのだと今でも思います。

決勝戦では今までにないまとまりを見せたり、普段ではしないミスをしたり… 周りから何と言われようと決勝まで進んだチーム・戦った者同士でしか分からないことがたくさんあり、それを経験できたことはこれからのチームの大きな力になりました。



九山優勝

福岡大学医学部準硬式野球愛好会 長尾 達 憲 (M4)

第51回九州山口医科学学生体育大会が、2012年4/28～4/30の期間、宮崎のサンマリスタジアム宮崎とひむか球場で開催され、私達は「優勝」という最高の結果を残すことができました。

今大会、予選リーグの大分戦、久留米戦は苦しみながらも、先輩方の活躍もあり、なんとか2戦全勝で準決勝に勝ち上がることができました。準決勝の産業医戦は、プロ野球の公式戦でも利用されるサンマリスタジアム宮崎で行われ、この試合はチームとしても、とても良い雰囲気の中で戦うことができ、3-1の今シーズン最も良い内容で勝つことが出来ました。この良い流れの中、決勝戦長崎戦を迎えましたが、残念ながら激しい雨のため延期となり、決勝戦は日を改め5/26に福岡の西部運動公園野球場にて行

われることになりました。決勝戦まで急に1ヶ月空くことになり、コンディションの維持が最大の焦点となり、部員の皆が苦勞し、非常に難しい状態で試合に望むことになりました。

そうして迎えた決勝戦当日、3回までに3点を奪い、福大優位の試合展開でしたが、やはり決勝戦。長崎大も粘りを見せ、8回表が終わった時点で3-3の同点の

接戦になりました。そんな中8回裏の福大の攻撃で打線が繋がり1点を奪うことができ、このまま9回表の長崎打線をなんとか抑え4-3で勝利し、優勝を決めることが出来ました。

この優勝は顧問の岩崎先生、OB会長の山下先生、監督の藤澤先生、OBの先生方の御協力があったからこそ成し遂げることができた結果であると部員一同感謝しています。この場をお借りしてお礼申し上げます。

これからも良い結果を報告できますよう部員一同精進していきたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひします。

本当にありがとうございました。



訃 報

特別会員 菊池昌弘先生	平成24年4月28日ご逝去（病理学）
正会員 今泉忍先生	平成24年5月11日ご逝去（5回生）
正会員 浜田一志先生	平成24年9月18日ご逝去（20回生）

菊池先生への言葉

福岡大学医学部病理学教室 教授 竹下盛重 (3回生)



2012年4月28日未明、菊池昌弘先生が悪性リンパ腫の再燃、胸水貯留と呼吸不全のため逝去されました。享年78才。

菊池先生は、1973年、当時新設の福岡大学医学部に初代教授としてこれ、故今井環先生、竹林茂夫先生と共に病理学教室の礎を作られました。菊池先生のわかりにくい授業、故今井先生の厳しく几帳面な授業を今でも思い出します。

私は福岡大学医学部の3回生で、1982年病理学と菊池先生に惹かれ教室に入りました。当時は1977年にウイルスが明確に腫瘍に關与する疾患でありますATL/L(成人T細胞性白血病/リンパ腫)が華々しい時期であり、福岡はその一拠点として菊池先生を中心にその病理学的特徴を検討しておりました。菊

池先生は、出来る限り多くの症例を集めその臨床病理学的特徴をみていくことをスタンスとし、その中で特徴あるものを見出していくというお考えでした。中立的で自由な発想を重視されていましたが、我々にとり、自由を取り違えますと大変なことになり危険な状況を引きおこしますので、自然と正確なデータを出そうと心がけました。その菊池先生を中心とした病理的な解析が世界に認められ、2001年のWHOの悪性リンパ腫の分類ではATL/Lの部門を任せられ先生が自ら執筆されました。今はその亜型が世界に紹介されているのは周知のことです。また、一方1972年に菊池先生が6例のKikuchi病を初めて報告され、80年台には276例の経時的变化を世界に発信されました。多方面から本疾患を解析し今のKikuchi病を確立されました。先生は、正常の状態、反応性疾患と腫瘍性疾患を一緒に考えることがより疾患理解を深めるということを我々後輩に教えていたのだと思います。

先生は時間に几帳面な方で、日曜-土曜日朝8時から夜8時まで会議等以外は部屋におられ、我々の話をじっくりと聞いてくださいました。いわゆるバイタリティと統括力があり、膨大な病理の仕事と共に学部、病院、大学の仕事を1つ1つ着実にこなされ、日本病理学会、日本の悪性リンパ腫研究、本学部、病院の発展に大きく寄与されました。この中で、大学病院

の経営を正しく方向付ける先駆けとなられ、病院の健全経営に尽くされたのは周知のことと思います。

また、先生はご友人を大切にされ、海外の方々とも人的交流をされました。特にドイツには Lennert 教授を始め多数の仲間がおられ、日独交流事業を積極的に進め大きな道筋を作られました。また、留学生受け入れや国際学会開催など日中台、アジアの病理医交流にも積極的に努めておられました。

先生は、大学退職後も市内と大分県中津市の病院の理事長をされ、積極的に病院発展、また地域医療のためご尽力されておりましたが、4 年前に縦隔の

T 細胞性リンパ腫を患いました。先生は持ち前の高い治癒力で長く寛解状態を維持し日常のお仕事を遂行されておられましたが、半年前より悪性リンパ腫が治療抵抗性となり、帰らぬ人となりました。

先生は、場面場面で最大限の力を発揮するというお気持ちで、ずっと先頭に立って走ってこられました。長年にわたり我々後輩を育て、ご指導くださりありがとうございました。この遺影を拝見しておりますと、すぐ横にこられしっかりせいとしかられそうな気がします。

安らかにお眠りください。感謝。

今泉 忍先生を偲んで

医療法人社団 諸江内科循環器科医院 理事長 諸 江 一 男 (3 回生)

今泉 忍先生を偲んで

今泉先生とは3回の出会いがありました。お互い実家が近所で父親同士の親交があり、家族ぐるみの付き合いがありました。中学校の2年先輩で、当時あまり交流はありませんでしたが、バス通学で一緒に通学し、カバンの中から嬉しそうにモデルガンを見せてもらったことを覚えています。田舎者の私から見るとハイカラなイメージで格好いい先輩でした。卒業後、彼は久留米大付設高校、私は地元の高校へ進学しました。次に、彼に会ったのは大学時代、サッカー部でした。久しぶりに会った彼は相変わらずナイスガイで明るく彼の周りにはいつも人がいる様でした。約半年ほどの付き合いでしたが、毎日、遅くまで一緒にサッカーをしたことはいい思い出です。大学卒業後、彼は佐賀医大眼科へ入局し、大学病院、佐賀県立病院好生館で眼科医として診療・教育・研究に勤しまれたとお聞きしました。その後、御自宅へ戻ら

れ、お父様(現在も現役)と御一緒に今泉眼科院長として御活躍なさっておられました。そんな折、平成14年、私も実家診療所へ戻ることになり、彼との3度目の出会いとなりました。彼は『忍先生』と呼ばれ御近所の人からも慕われた存在のようでした。多久医師会の毎月定例会では佐賀大学時代・県立病院時代のご活躍を聞いたものです。話しますと明るく、人懐っこいしゃべり方は以前と変わりません。会食の際、彼の食事は別メニュー。いつもあまり食欲がなく、偏食で食べられるものが少なく『先は長くないかな?』と笑いながら冗談を言っていた忍先生・・・

最近特に痩せているのが気になってはいましたが、突然の悲報に大変驚き、大変残念でなりません。

御冥福をお祈り申し上げます。

医療法人社団 諸江内科循環器科医院

諸江 一男(3回生)

福岡大学医学部同窓会諸表

平成 23 年度収入支出決算

区分	科 目	23 予算 :A	23 決算 :B	23 決算予算比較	決 算 内 訳
収 入	繰 越 金	12,314,549	12,314,549	-	
	会 費 収 入	26,897,000	28,921,050	▲ 2,024,050	入会費 :5,912,900 学年会費 :4,711,230 年会費 :18,144,200 準年会費 :152,720
	協 賛 金 収 入	-	-	-	
	雑 収 入	120,000	1,051	118,949	預金利子
	預り金収入	160,000	76,838	83,162	給与源泉徴収税
	積立金繰入	-	-	-	
	仮 受 金	-	-	-	
合 計	39,491,549	41,313,488	▲ 1,821,939		
支 出	給 与	4,570,000	4,221,820	348,180	職員 1 名, パート 2 名 ・ ・ 前年度実績
	旅 費	2,020,000	1,772,970	247,030	役員旅費 :475,130 評議員会 :248,620 私大連絡会 :246,460 その他 :802,760
	事務用品費	350,000	436,443	▲ 86,443	
	印 刷 費	2,460,000	2,182,927	277,073	会報 :2,062,377 封筒 :114,450 その他 :6,100
	通信運搬費	2,060,000	839,307	1,220,693	電信電話 :85,404 会報 :266,478 切手葉書 :239,000 その他 :248,425
	設備工事費	240,000	210,000	30,000	契約維持 :210,000 その他 :100,000
	什器備品費	240,000	497,905	▲ 257,905	コピー機, プリンター
	事 業 費	14,880,000	9,701,347	5,178,653	総会費 :194,041 講師招聘援助費 :230,000 支部活動費 :1,166,360 研究奨励費 :1,650,860 在外研究援助金 :400,000 新入生歓迎会 :735,220 M4 激励会 :667,720 M6 国試激励会 :1,492,422 M7 激励会 :48,000 夏期セミナー :279,623 講師料 :560,852 国試応援 :182,583 烏帽子会賞 :170,000 学生行事援助 :124,000 M5 白衣贈与 :859,665 支部祝儀 :21,000 慶弔 :30,000 学会寄付 :700,000
	会 議 費	2,000,000	2,182,754	▲ 182,754	理事会, 会長懇話会 :436,849 評議員会 :425,426 私大連絡会 :997,699 その他 :322,780
	公 租 公 課	70,000	-	70,000	
	雑 費	3,032,000	4,490,070	▲ 1,458,070	渉外費 :170,000 慶弔費 230,000 その他 :1,090,070 池田前事務局長への慰労金 :3,000,000
	預り金支出	100,000	85,808	14,192	給与源泉徴収税
	引当金積立	3,000,000	-	3,000,000	
	協賛金支出	-	479,670	▲ 479,670	平成 22 年度入金 14 社分刊行物へ
借入金返却	-	-	-		
予 備 費	4,469,549	-	4,469,549		
合 計	39,491,549	27,101,021	12,390,528		
収 支 差 引	-	14,212,467	▲ 14,212,467		

平成 23 年度残金処分

残金額 (収支差引額)	14,212,467 円
事業積立金積立	1,000,000 円
刊行物積立金	2,000,000 円
次年度繰越	11,212,467 円

平成 23 年度特別会計決算

	事業積立金	医学教育研究基金	刊行物積立金	合 計
前年度より繰越	89,272,265	3,896,910	2,441,335	95,610,510
本年度増加額	0	6,103,090	3,989,670	10,092,760
本年度受取利息	7,133	0	0	7,133
本年度減少額	▲ 6,103,090	0	▲ 4,379,665	▲ 10,482,755
本年度未決算額	83,176,308	10,000,000	2,051,340	95,227,648

平成 23 年度事業報告と平成 24 年度事業計画

項目	年度		平成 24 年度 事業計画	
	平成 23 年度 事業計画	平成 23 年度 事業報告	平成 24 年度 事業計画	C - A
	予算 (A)	実績 (B)	予算 (C)	
① 会報の発行	3,250,000	2,328,855	3,184,000	▲ 66,000
② 総会の開催	200,000	194,041	200,000	0
③ 支部活動援助	1,550,000	1,396,360	1,550,000	0
④ 研究奨励賞	1,500,000	1,650,860	1,500,000	0
⑤ 在外研究援助	1,500,000	400,000	1,500,000	0
⑥ 学生対策	2,800,000	2,943,362	2,800,000	0
⑦ 白衣贈与	1,000,000	859,665	1,300,000	300,000
⑧ 国試応援	2,000,000	1,023,059	2,000,000	0
⑨ 支部祝儀贈与	230,000	210,000	230,000	0
⑩ 学生行事援助	800,000	294,000	800,000	0
⑪ 学会寄付		700,000	1,000,000	1,000,000
⑫ 慶弔贈与	300,000	30,000	300,000	0
⑬ グッズ作製	0	0	0	0
⑭ 会員名簿の発行	6,000,000	4,379,665	0	▲ 6,000,000
⑮ パニックマニュアルの発行	0	0		0
⑯ 奨学金緊急貸与	0	0	0	0
合計	21,130,000	16,409,867	16,364,000	▲ 4,766,000

平成 24 年度収入支出予算

区分	科目	23 予算	24 予算	24 年度予算摘要	24 予算-23 予算
収入	繰越金	12,314,549	11,212,467		▲ 1,102,082
	会費収入	26,897,000	27,197,000	入会費 :5,190,000 学年会費 :4,446,000 年会費 :17,130,000 準年会費 :131,000	300,000
	協賛金収入				-
	雑収入	120,000	120,000	グッズ売上ほか	-
	預り金収入	160,000	60,000	給与源泉徴収税	▲ 100,000
	積立金繰入				-
	仮受金				-
合計	39,491,549	38,589,467		▲ 902,082	
支出	給与	4,570,000	3,330,000	パート 2 名	▲ 1,240,000
	旅費	2,020,000	2,020,000	役員旅費他	-
	事務用品費	350,000	350,000		-
	印刷費	2,460,000	2,752,000	会報 : 年 2 回、その他	292,000
	通信運搬費	2,060,000	1,500,000	電信電話、会報、切手葉書ほか	▲ 560,000
	設備工事費	240,000	240,000	維持契約、その他	-
	什器備品費	240,000	240,000		-
	事業費	14,880,000	16,530,000	総会費 講師招聘援助費 支部活動費 研究奨励賞 在外研究援助金 新入生歓迎会 M4 激励会 M6 国試激励会 M7 激励会 M5 白衣贈与 国試応援費 支部祝儀贈与 学生行事援助 学会寄付 慶弔贈与 事業予備費	1,650,000
	会議費	2,000,000	2,000,000	理事会、会長懇話会、評議員会、各種委員会、その他	-
	公租公課	70,000	70,000	法人県市民税 :70,000	
	雑費	3,032,000	3,000,000	税理士報酬、渉外費、寄付金、その他	▲ 32,000
	預り金支出	100,000	60,000	給与源泉徴収税	▲ 40,000
	引当金積立	3,000,000	4,000,000		1,000,000
仮渡金					
借入金返却					
予備費	4,469,549	2,497,467		▲ 1,972,082	
合計	39,491,549	38,589,467		▲ 902,082	
収支差引	-				

医局長・医長名簿 (○内の数字は福大医学部卒業回)

(平成24年10月現在)

	医局長	病棟医長	外来医長
[福大病院]			
腫瘍・血液・感染症内科	石塚賢治	白橋顕彦 ②②	後藤敏孝
内分泌・糖尿病内科	野見山崇	竹之下博正 ②⑥	永石綾子 ②⑦
循環器内科	小川正浩 ①④	安田智生 ①⑦	藤見幹太 ①⑧
消化器内科	釈迦堂敏	森原大輔 ②②	富岡禎隆 ②⑩
呼吸器内科	白石素公 ①①	田中誠 ②⑦	田代尚樹
腎臓・膠原病内科	三宅勝久	安部泰弘 ②①	小河原悟 ⑦
血液浄化療法センター		安部泰弘 ②①	
神経内科・健康管理科	合馬慎二 ②③	津川潤	樋口正晃 (神経)
〃			宗清正紀 (健管)
精神神経科	内田直樹	田中謙太郎 ②⑤	永井宏 ②②
〃 (ダイケア)			吉田公輔
小児科	太田栄治 ①⑨	吉兼由佳子 ①⑨	森島直美
消化器外科	佐々木隆光 ①⑨	谷村修	吉田陽一郎
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	濱武大輔 ②⑩	平塚昌文 ①③	柳澤純
整形外科	金澤和貴	中村好成 ②②	石河利之 ①⑧
形成外科	大山拓人 ②⑥	山本康弘	小野澤久輔 ③⑩
脳神経外科	岩朝光利 ①⑦	野中将 ①⑥	上羽哲也
心臓血管外科	西見優	峰松紀年	松村仁
皮膚科	古賀文二 ②③	笹本聖人	徳永哲夫
泌尿器科	松岡弘文 ⑧	宮島茂郎 ②②	中村信之 ①⑩
産婦人科	小濱大嗣 ①⑤	讃井絢子 ②④(産科)	中山直美 ②⑤
〃		植田多恵子 (婦人科)	
眼科	梅田尚靖 ①⑧	小沢昌彦 ①⑤	有田直子 ①⑤
耳鼻咽喉科	樋口仁美	福崎勉 ②⑩	大西克樹 ②⑤
放射線科	野元諭	光藤利通 ②⑩	島倉樹子 ①⑧
麻酔科	香取清 ①③	平田和彦 ①②	平田和彦 ①②
歯科口腔外科	瀬戸美夏	高橋宏昌	大谷泰志
病理部	久野敏		
臨床検査部	松本直通 ①④		
輸血部	熊川みどり		
救命救急センター	梅村武寛	紙谷孝則 ①⑤	
総合周産期母子医療センター		中村公紀 ①⑥(新生児部門)	
〃		中村晶俊 (3階南病棟)	
総合診療部	武岡宏明 ②⑤	武岡宏明 ②⑤	鍋島茂樹 ①③
東洋医学診療部	久保田正樹 ①④		
[筑紫病院]			
筑紫病院 (総医局長)	石井龍 ⑤		
循環器内科	東條秀明 ①⑦	岡村圭祐 ②④	森憲 ②①
内分泌・糖尿病内科	工藤忠睦 ②③	工藤忠睦 ②③	小林邦久
呼吸器内科	※宮崎浩行	赤木隆紀 ②①	児玉多 ②⑦
消化器内科・内視鏡部	久部高司 ①⑦	野間栄次郎 ①⑧	別府孝浩 ②②
小児科	橋本淳一 ①⑨	吉村和子 ②①	鶴澤礼実
外科	三上公治 ①③	永川祐二 ①⑨	石橋由紀子 ②③
整形外科	秋吉祐一郎	櫻井真 ②⑦	城島宏 ①④
脳神経外科	坂本玉哉 ②⑧	伊香稔	相川博
泌尿器科	石井龍 ⑤	平浩志 ①⑤	石井龍 ⑤
眼科	佐伯有祐	佐伯有祐	佐々由季生
耳鼻いんこう科	山野貴史 ①⑧	山野貴史 ①⑧	坂田俊文 ①⑩
放射線科	中島力哉 ①④		
麻酔科	生野慎二郎 ⑧		
病理部	原岡誠司		
救急部	堤正則		

(筑紫病院の※印は、循環器内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科の代表医長)

教育職員人事 (講師以上)

(○内の数字は福大医学部卒業回) [平成 24.4.2 ~ 24.10.1]

区分	所属	資格	氏名	発令日	摘要
採用	筑紫脳神経外科	講師	中井完治	24.10.1	
昇格	小児科学	診療教授	安元佐和 ⑦	24.10.1	
	心臓血管外科学	診療教授	和田秀一 ⑬	24.10.1	
	内分泌・糖尿病内科学	准教授	野見山 崇	24.10.1	
	腎臓・膠原病内科	准教授	笹富佳江 ⑬	24.10.1	
	筑紫泌尿器科	准教授	石井 龍 ⑤	24.10.1	
	心臓血管外科	診療准教授	西見 優	24.10.1	
	放射線診断部	診療准教授	野元 論	24.10.1	
	腎臓・膠原病内科	講師	三宅 勝久	24.10.1	
	筑紫耳鼻いんこう科	講師	山野 貴史 ⑱	24.10.1	
	歯科口腔外科	講師	梅本 丈二	24.10.1	
	歯科口腔外科	講師	世戸 美夏	24.10.1	
産科婦人科学	講師	植田 多恵子	24.10.1		
退職	内分泌・糖尿病内科	准教授	明比 祐子	24.9.30	
	消化器外科	講師	眞栄城 兼清 ④	24.8.15	
	消化器内科学	講師	坂本 雅晴	24.7.1	

名簿過誤訂正

会員名簿第 10 号に誤りがありましたので下記のとおり追加及び訂正させていただきます。
関係者の方々に多大なるご迷惑をおかけ致しました。お詫び申し上げます。

・第 9 回生卒業生 71 ページ

野元淳子先生 勤務役職「副院長」 削除

・医学科・病院教職員名簿

253 ページ／廣松賢治先生「廣松賢司」→「廣松賢治」訂正

254 ページ／中島 衡先生「昭 59 九大医」→「昭 56 九大医」訂正

254 ページ／三宅勝久先生「平 9 九大医」→「平 9 年久大医」訂正

事務局からのご連絡

女性用診察衣長袖の袖丈サイズが変更になりました。
女性の体型の規格変更に伴い、袖丈が 4cm 長くなっております。カッコ内は旧のサイズです。
今まで、袖出しの補正をされていた方はご注意ください。
新サイズの見本は同窓会室にごございます。
ホームページでもご案内しております。

福岡大学医学部同窓会用白衣サイズ表 (出来上がり寸法 H24.7.1 現在)

区分	サイズ	男性用					女性用				
		着丈	バスト	肩幅	袖丈	半袖	着丈	バスト	肩幅	袖丈	半袖
診察衣 半袖 ¥4,200 長袖 ¥4,300 (ネーム入れは 100 円追加)	S	97	106	44	56	24	88	100	38	55 (51)	20
	M	100	110	45	57	25	91	104	39	55 (52)	21
	L	105	114	46	58	26	96	108	40	57 (53)	22
	LL	105	118	47	59	27	101	112	42	59 (54)	23
	3L	105	124	49	59	27	101	118	44	59 (54)	23
KC 半袖のみ ¥4,300 (ネーム入れは 100 円追加)	S	72	100	42		24	67	94	38		20
	M	74	104	44		25	69	98	39		21
	L	76	108	46		26	71	102	40		22
	LL	78	114	48		27	74	106	42		23
	3L	78	120	50		27	74	112	44		23

宅送料は九州管内の場合は 10 着まで 500 円。管外は少々高くなります。
女性用診察衣長袖の袖丈サイズが変更になりました。(カッコ内は旧のサイズ)

烏帽子会ホームページ上
お見合い広場

烏帽子会縁結びサイト

12月1日

ホームページ上開始

結婚したい！
結婚したい！

結婚させたい・結婚したい美男&美女募集します。

結婚させたい！
結婚させたい！

詳しくは、「烏帽子会縁結びサイト」を
ご覧ください。

編 集 後 記

今回お届けする烏帽子会報は、透明な袋で送付させて頂いておりますので、表紙も判りやすく、お手元に届きましたらすぐにでも中を見たくなる、そんな烏帽子会報を目指しております。また学生会員の方への配布には、同窓会事務局の方に各学年の講義室で配布して頂いております。1年生の教室での配布の際には5名の学生さんが自ら進んで同級生に配布してくれました。ご協力ありがとうございました。同級生から手渡される会報は親近感が湧くことでしょう。表紙には福岡大学筑紫病院新病院の完成予想図を載せております。平成24年11月現在、外装はほぼ完成し、筑紫野地区の拠点病院として平成25年5月の開院予定日を心待ちにしております。少しずつ変わっていく福岡大学医学部・病院ですが、烏帽子会は変わらず会員の皆様のお力になれますよう一層努力して参ります。

広報担当理事:21回生 北島研

烏帽子会会報第53号

発行日 平成24年11月15日
発行人 高木 忠博
編集人 大慈弥裕之

発行所 〒814-0180
福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学医学部同窓会
電話 092-865-6353 (直通)
092-801-1011 (代表)
内線 3032
FAX 092-865-9484
E-mail: eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp

印刷所 ロータリー印刷(株)
福岡市中央区長浜2-1-30
電話 092-711-7741
FAX 092-711-7901